

(様式第 10)

聖国大第 21-0976 号
令和 3 年 10 月 5 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人聖路加国際大学
理事長 佐々木 新一

聖路加国際病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、令和 2 年度の業務に関して報告します。
記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒104-0044 東京都中央区明石町10番1号
氏 名	学校法人聖路加国際大学 理事長 佐々木 新一

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

聖路加国際病院

3 所在の場所

〒104-8560 東京都中央区明石町9番1号	電話(03) 3541 - 5151
----------------------------	----------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等 ①呼吸器内科 ②消化器内科 ③循環器内科 ④腎臓内科 ⑤神経内科 ⑥血液内科 ⑦内分泌内科 ⑧代謝内科 ⑨感染症内科 10アレルギー疾患内科またはアレルギー科 11リウマチ科	
診療実績 ・ 上記10,11については、内科において「アレルギー・膠原病科」を設置し、診療を行っている。	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
----	---------

外科と組み合わせた診療科名 ①呼吸器外科 ②消化器外科 ③乳腺外科 4心臓外科 5血管外科 ⑥心臓血管外科 ⑦内分泌外科 ⑧小児外科
診療実績

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3)その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 ⑦産婦人科 8産科 9婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 ⑫放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科 ⑮麻酔科 ⑯救急科

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科 2矯正歯科 ③口腔外科	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 心療内科	2 腫瘍内科	3 緩和ケア内科	4 形成外科	5 病理診断科	6 臨床検査科	7 児童精神科
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精 神	感染症	結 核	療 養	一 般	合 計
床	床	床	床	520床	520床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	387人	42人	429人	看 護 補 助 者	86人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	4人	1.5人	5.5人	理 学 療 法 士	23人	臨床検査技師	94人
薬 剤 師	51人	4人	55人	作 業 療 法 士	6人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	10人	そ の 他	0人
助 産 師	56人	2.4人	58.4人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	715人	20人	735人	臨 床 工 学 士	36人	医療社会事業従事者	9人
准 看 護 師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	21人
歯科衛生士	5人	1人	6人	歯 科 技 工 士	1人	事 務 職 員	301人
管理栄養士	10人	1.8人	11.8人	診療放射線技師	52人	そ の 他 の 職 員	0人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	41人	眼 科 専 門 医	6人
外 科 専 門 医	22人	耳鼻咽喉科専門医	2人
精 神 科 専 門 医	3人	放射線科専門医	5人
小 児 科 専 門 医	13人	脳神経外科専門医	7人
皮 膚 科 専 門 医	3人	整形外科専門医	7人
泌尿器科専門医	7人	麻 酔 科 専 門 医	14人
産婦人科専門医	16人	救 急 科 専 門 医	13人
		合 計	159人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (石松 伸一) 任命年月日 令和3年4月1日

- ・聖路加国際病院 2003～2009年セーフティマネジメント委員会（医療安全管理委員会）委員としてインシデントの根本原因分析（RCA）の実施
- ・聖路加国際病院 2002～2005年医療ガス委員会 委員長
- ・聖路加国際病院 2010年～2020年救急・集中治療部門運営委員会委員長として急変WG活動から院内急変事例の減少を実現
- ・2008 年日本救急医学会 診療行為関連死の死因究明等の在り方検討特別委員会（有賀 徹委員長）委員
- ・聖路加国際病院 救急部部長、救命救急センター長、集中治療科部長としての医療安全管理の経験

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1 日 当 たり 平 均 入 院 患 者 数	434.0 人	0.6 人	434.6 人
1 日 当 たり 平 均 外 来 患 者 数	1939.4 人	54.6 人	1994 人
1 日 当 たり 平 均 調 剤 数	1121 剤		
必要医師数	151.22 人		
必要歯科医師数	3 人		
必要薬剤師数	14 人		
必要（准）看護師数	281 人		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二条の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施 設 名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	224.04m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	病 床 数	8床	心 電 計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 21.8m ² [移動式の場合] 台 数 13 台		病床数 2 床			
医 薬 品 情報管理室	[専用室の場合] 床 積 78.23m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	230.89m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動分析装置クリライザ [®] 、乾式臨床化学分析装置、全自動糖分析装置、自動グリコヘモグロビン分析計、浸透圧分析装置、分析前工程統合管理モジュール			
細菌検査室	108.72m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) 全自動細菌同定検査装置、微生物感受性分析装置、全自動血液培養装置			
病理検査室	310.51m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動染色装置、顕微鏡写真撮影装置、自動免疫染色装置、自動賦活装置、電子顕微鏡			
病理解剖室	42.11m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) 超低温フリーザー、臓器撮影装置、電動昇降式解剖台、電動解剖ノココントロールモジュール			
研 究 室	825.12m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) 超低温フリーザー、クリーンベンチ、クロマトチャンバー、スライド用細胞遠心機、リアルタイムPCR、サーマルサイクラー、共焦点顕微鏡、蛍光顕微鏡、位相差顕微鏡、シークエンサー、フローサイトメーター、液体窒素タンク			
講 義 室	536.87m ²	鉄筋コンクリート	室数	6室	収容定員	282 人
図 書 室	1666.14m ²	鉄筋コンクリート	室数	2室	蔵 書 数	64,000冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率		75.9%	逆紹介率		69.5%
算出根拠	A：紹介患者の数		12572人		
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		17475人		
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		6507人		
	D：初診の患者の数		25137人		

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
相馬孝博	千葉大学医学部附属病院	○	千葉大学医学部附属病院において医療安全担当副院長を務められ、医療安全に関する知識や実績が豊富なこと。	有・ 無	1
七里守	榊原記念病院		医療の質・安全学会の代議員を務められ、医療安全全般に関する知識が豊富であること。	有 ・無	1
滝沢牧子	群馬大学		医療の質・安全管理部の助教を務められ、医療安全全般に関する知識が豊富であること。	有・ 無	1
小林信秋	認定NPO法人難病のこども支援全国ネットワーク		長年にわたって患者支援活動を行っており、医療を受ける者の代表として適任であること。	有・無	2
渡邊俊太郎	翼法法律事務所		関連法務から企業法務まで幅広い分野で活躍され、医療事故調査委員としての実績も十分なこと。	有・無	1

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
- 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 - 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
 - その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有 ・無
委員の選定理由の公表の有無	有 ・無
公表の方法 病院ホームページで公表（HOME＞病院紹介＞情報公開）	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

[illegible]

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

[illegible]

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	ロボット支援胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 日本外科学会が公開している、「高難度新規医療技術該当リスト」に該当する手技			
医療技術名	ロボット支援胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術、肺葉切除術郭清	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 日本外科学会が公開している、「高難度新規医療技術該当リスト」に該当する手技			
医療技術名	肝切除術(1区域切除)(外側区域切除をのぞく)(腹腔鏡下)	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 日本外科学会が公開している、「高難度新規医療技術該当リスト」に該当する手技			
医療技術名	経カテーテル、大動脈弁置換術(経皮的)	取扱患者数	16人
当該医療技術の概要 日本外科学会が公開している、「高難度新規医療技術該当リスト」に該当する手技			
医療技術名	大動脈瘤切除術(上行及び弓部同時手術)	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 日本外科学会が公開している、「高難度新規医療技術該当リスト」に該当する手技			
医療技術名	大動脈瘤切除術(胸腹部大動脈)	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 「外保連試案2020」に記載されている医療技術難易度Eに該当する手技			
医療技術名	頭蓋内腫瘍摘出術(松果体部腫瘍)	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 「外保連試案2020」に記載されている医療技術難易度Eに該当する手技			
医療技術名	頭蓋内腫瘍摘出術(その他のもの)	取扱患者数	23人
当該医療技術の概要 「外保連試案2020」に記載されている医療技術難易度Eに該当する手技			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
1	筋萎縮性側索硬化症	4	56	甲状腺ホルモン不応症	3
2	進行性核上性麻痺	16	57	アジソン病	47
3	パーキンソン病	427	58	サルコイドーシス	195
4	大脳皮質基底核変性症	3	59	特発性間質性肺炎	75
5	シャルコー・マリー・トウース病	3	60	肺動脈性肺高血圧症	64
6	重症筋無力症	123	61	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	11
7	多発性硬化症／視神経脊髄炎	55	62	リンパ脈管筋腫症	8
8	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	15	63	網膜色素変性症	54
9	多系統萎縮症	8	64	バッド・キアリ症候群	1
10	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	29	65	特発性門脈圧亢進症	3
11	もやもや病	70	66	原発性胆汁性胆管炎	117
12	亜急性硬化性全脳炎	1	67	原発性硬化性胆管炎	6
13	進行性多巣性白質脳症	1	68	自己免疫性肝炎	1
14	特発性基底核石灰化症	2	69	クローン病	75
15	全身性アミロイドーシス	4	70	潰瘍性大腸炎	559
16	神経線維腫症	16	71	好酸球性消化管疾患	1
17	天疱瘡	17	72	チャージ症候群	1
18	膿疱性乾癬(汎発型)	20	73	若年性特発性関節炎	38
19	スティール・ジョンソン症候群	23	74	非典型溶血性尿毒症症候群	1
20	中毒性表皮壊死症	3	75	先天性ミオパチー	2
21	高安静脈炎	31	76	筋ジストロフィー	25
22	巨細胞性動脈炎	27	77	遺伝性周期性四肢麻痺	1
23	結節性多発動脈炎	29	78	脊髄空洞症	11
24	顕微鏡的多発血管炎	45	79	脊髄髄膜瘤	2
25	多発血管炎性肉芽腫症	55	80	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	1
26	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	42	81	前頭側頭葉変性症	2
27	悪性関節リウマチ	17	82	ビッカーstaff脳幹脳炎	1
28	バージャー病	137	83	痙攣重積型(二相性)急性脳症	1
29	原発性抗リン脂質抗体症候群	176	84	アレキサンダー病	1
30	全身性エリテマトーデス	609	85	ミオクロニー欠神てんかん	1
31	皮膚筋炎／多発性筋炎	148	86	レノックス・ガストー症候群	2
32	全身性強皮症	319	87	レット症候群	1
33	混合性結合組織病	63	88	スタージ・ウェーバー症候群	4
34	シェーグレン症候群	1055	89	結節性硬化症	4
35	成人スチル病	29	90	色素性乾皮症	5
36	再発性多発軟骨炎	3	91	家族性良性慢性天疱瘡	4
37	ベーチェット病	141	92	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	40
38	特発性拡張型心筋症	30	93	マルファン症候群	18
39	肥大型心筋症	244	94	エーラス・ダンロス症候群	3
40	拘束型心筋症	1	95	ウィリアムズ症候群	5
41	再生不良性貧血	62	96	アペール症候群	1
42	自己免疫性溶血性貧血	27	97	歌舞伎症候群	1
43	発作性夜間ヘモグロビン尿症	5	98	ブラダー・ウィリ症候群	2
44	特発性血小板減少性紫斑病	140	99	ソトス症候群	2
45	血栓性血小板減少性紫斑病	9	100	ヌーナン症候群	3
46	原発性免疫不全症候群	5	101	アンジェルマン症候群	2
47	IgA 腎症	179	102	修正大血管転位症	30
48	多発性嚢胞腎	111	103	完全大血管転位症	25
49	黄色靱帯骨化症	10	104	単心室症	37
50	後縦靱帯骨化症	45	105	左心低形成症候群	1
51	広範脊柱管狭窄症	9	106	三尖弁閉鎖症	20
52	特発性大腿骨頭壊死症	28	107	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	1
53	クッシング病	2	108	ファロー四徴症	98
54	下垂体前葉機能低下症	388	109	両大血管右室起始症	29
55	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	133	110	エブスタイン病	13

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
111	アルポート症候群	1	166		
112	急速進行性糸球体腎炎	102	167		
113	一次性ネフローゼ症候群	246	168		
114	紫斑病性腎炎	12	169		
115	間質性膀胱炎(ハンナ型)	29	170		
116	オスラー病	4	171		
117	閉塞性細気管支炎	7	172		
118	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	2	173		
119	副甲状腺機能低下症	34	174		
120	偽性副甲状腺機能低下症	2	175		
121	ポルフィリン症	2	176		
122	家族性地中海熱	11	177		
123	慢性再発性多発性骨髄炎	1	178		
124	強直性脊椎炎	72	179		
125	リンパ管腫症/ゴーハム病	1	180		
126	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	2	181		
127	先天性赤血球形形成異常性貧血	1	182		
128	後天性赤芽球癆	2	183		
129	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	1	184		
130	ファンconi貧血	1	185		
131	クロンカイト・カナダ症候群	3	186		
132	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸	11	187		
133	先天性横隔膜ヘルニア	1	188		
134	胆道閉鎖症	4	189		
135	遺伝性脾炎	1	190		
136	IgG4関連疾患	55	191		
137	黄斑ジストロフィー	2	192		
138	好酸球性副鼻腔炎	37	193		
139	進行性白質脳症	1	194		
140	進行性ミオクロームスてんかん	7	195		
141	先天性三尖弁狭窄症	1	196		
142	先天性僧帽弁狭窄症	1	197		
143	無虹彩症	2	198		
144	特発性多中心性キャッスルマン病	9	199		
145			200		
146			201		
147			202		
148			203		
149			204		
150			205		
151			206		
152			207		
153			208		
154			209		
155			210		
156			211		
157			212		
158			213		
159			214		
160			215		
161			216		
162			217		
163			218		
164			219		
165			220		

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
地域歯科診療支援病院歯科初診料	データ提出加算(2)
歯科外来診療環境体制加算	入退院支援加算【加算1】
特定機能病院入院基本料	認知症ケア加算【加算1】
救急医療管理加算	せん妄ハイリスク患者ケア加算
超急性期脳卒中加算	精神疾患診療体制加算
診療録管理体制加算(1)	排尿自立支援加算
医師事務作業補助体制加算1(15対1)	地域医療体制確保加算
急性期看護補助体制加算25対1	地域歯科診療支援病院入院加算
看護職員夜間配置加算(12対1)	救命救急入院料3
療養環境加算	救命救急入院料4
重症者等療養環境特別加算	特定集中治療室管理料1
無菌治療室管理加算(1)(2)	特定集中治療室管理料3
緩和ケア診療加算	ハイケアユニット入院医療管理料1
精神科リエゾンチーム加算	新生児特定集中治療室管理料1
摂食障害入院医療管理加算	新生児治療回復室入院医療管理料
栄養サポートチーム加算	小児入院医療管理料1
医療安全対策加算(1)	緩和ケア病棟入院料1
感染防止対策加算(1)	
患者サポート体制充実加算	
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
ハイリスク妊婦管理加算	
ハイリスク分娩管理加算	
呼吸ケアチーム加算	
後発医薬品使用体制加算2	
病棟薬剤業務実施加算1	
病棟薬剤業務実施加算2	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
歯科疾患管理料の注11に規定する総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	遺伝学的検査
外来栄養食事指導料の注2に規定する施設基準	骨髓微小残存病変量測定
心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	BRCA1／2遺伝子検査
糖尿病合併症管理料	がんゲノムプロファイリング検査
がん性疼痛緩和指導管理料	先天性代謝異常症検査
がん患者指導管理料イ・ロ・ハ・ニ	抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
外来緩和ケア管理料	HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植)	ウイルス・細菌核酸多項目同時検出
移植後患者指導管理料(臓器移植)	検体検査管理加算(Ⅰ)(Ⅳ)
糖尿病透析予防指導管理料	国際標準検査管理加算
乳腺炎重症化予防・ケア指導料	遺伝カウンセリング加算
婦人科特定疾患治療管理料	遺伝性腫瘍カウンセリング加算
腎代替療法指導管理料	心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
地域連携小児夜間・休日診療料2	胎児心エコー法
地域連携夜間・休日診療料	時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
院内トリアージ実施料	ヘッドアップティルト試験
外来放射線照射診療料	単線維筋電図
ニコチン依存症管理料	神経学的検査
療養・就労両立支援指導料の注2に規定する相談体制充実加算	補聴器適合検査
がん治療連携計画策定料	コンタクトレンズ検査料1
外来排尿自立指導料	小児食物アレルギー負荷検査
肝炎インターフェロン治療計画料	内服・点滴誘発試験
薬剤管理指導料	CT透視下気管支鏡検査加算
医療機器安全管理料1・2	経気管支凍結生検法
医療機器安全管理料(歯科)	画像診断管理加算1・2
在宅血液透析指導管理料	遠隔画像診断
在宅酸素療法指導管理料の遠隔モニタリング加算	CT撮影及びMRI撮影
在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の遠隔モニタリング加算	冠動脈CT撮影加算
在宅腫瘍治療電療療法指導管理料	血流予備量比コンピューター断層撮影
持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)	外傷全身CT加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
心臓MRI撮影加算	組織拡張器による再建手術(一連につき) (乳房(再建手術)の場合に限る。)
乳房MRI撮影加算	骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
小児鎮静下MRI撮影加算	椎間板内酵素注入療法
頭部MRI撮影加算	脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
全身MRI撮影加算	仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(便失禁)
抗悪性腫瘍剤処方管理加算	治療的角膜切除術(エキシマレーザーによるもの(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。))
外来化学療法加算1	羊膜移植術
連携充実加算	緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
無菌製剤処理科	緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	網膜再建術
脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術
運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術
呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)、乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
がん患者リハビリテーション料	乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
歯科口腔リハビリテーション料2	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
認知療法・認知行動療法1	胸腔鏡下拡大胸腺摘出術 (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
処置の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1	胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術 (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
口腔粘膜処置	胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術 (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
レーザー機器加算	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術 (区域切除で内視鏡支援機器を用いる場合)
人工腎臓	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術 (肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
導入期加算2及び腎代替療法実績加算	食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膣腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
下肢末梢動脈疾患指導管理加算	胸腔鏡下弁形成術
CAD/CAM冠	胸腔鏡下弁形成術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
有床義歯修理及び有床義歯内面適合法の歯科技工加算1及び2	経カテーテル大動脈弁置換術
皮膚悪性腫瘍切除術 (センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)	胸腔鏡下弁置換術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
不整脈手術(左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)に限る。)	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
経皮的中隔心筋焼灼術	手術の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	胃瘻造設術(経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)(医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術)
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	医科点数表第2章第10部手術の通則の19に規定する手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)
両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	医科点数表第2章第10部手術の通則の19に規定する手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)
植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)	輸血管理料Ⅰ
植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術	輸血適正使用加算
両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)	貯血式自己血輸血管理体制加算
両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)	自己生体組織接着剤作成術
大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	自己クリオプレシピテート作製術(用手法)
経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)	同種クリオプレシピテート作製術
補助人工心臓	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
経皮的下肢動脈形成術	胃瘻造設時嚥下機能評価加算
腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)	歯周組織再生誘導手術
バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	広範囲顎骨支持型装置埋入手術
腹腔鏡下肝切除術	麻酔管理料(Ⅰ)(Ⅱ)
腹腔鏡下膵腫瘍摘出術	放射線治療専任加算
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	外来放射線治療加算
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	高エネルギー放射線治療
腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	1回線量増加加算
腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	画像誘導放射線治療加算(IGRT)
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	体外照射呼吸性移動対策加算
生体腎移植術	定位放射線治療
膀胱水圧拡張術	定位放射線治療呼吸性移動対策加算
人工尿道括約筋植込・置換術	病理診断管理加算2
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	悪性腫瘍病理組織標本加算
腹腔鏡下仙骨腫固定術	口腔病理診断管理加算2
腹腔鏡下仙骨腫固定術(内視鏡手術用支援機器を用いた場合)	クラウン・ブリッジ維持管理料
腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・前眼部三次元画像解析	・
・骨髄微小残存病変量測定	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	年7回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 18 例 / 剖検率 3.3 %

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
抗毒素製剤の高品質化、及び抗毒素製剤を用いた治療体制に資する研究	一二三 亨	救急部	6,500,000	補 委 日本医療研究開発機構 (AMED)
日本人BRCA未発症変異保持者に対する乳癌リスク低減手法の開発研究	山内 英子	乳腺外科	2,119,000	補 委 日本医療研究開発機構 (AMED)
NGS技術を駆使した遺伝学的解析による家族性乳がんの原因遺伝子同定と標準化医療構築	山内 英子	乳腺外科	2,050,000	補 委 日本医療研究開発機構 (AMED)
免疫応答モニタリングによるがん免疫の全容理解に基づく新規層別化マーカーの開発	山内 英子	乳腺外科	1,100,000	補 委 日本医療研究開発機構 (AMED)
静脈奇形に対するモノエタノールアミノolean酸塩を用いた硬化療法の有効性および安全性を評価する医師主導治験	野崎 太希	放射線科	1,141,374	補 委 日本医療研究開発機構 (AMED)
がん遺伝的素因を有する小児・AYA世代へのフォローアップ体制確立を目指したLi-Fraumeni症候群におけるがんサーベイランスプログラムの実行可能性と新規バイオマーカー探索に関する研究	野崎 太希	放射線科	260,000	補 委 日本医療研究開発機構 (AMED)
ヒルシュスプルング病類縁疾患診療ガイドライン改定を目指したエビデンス創出研究	松藤 凡	小児外科	260,000	補 委 日本医療研究開発機構 (AMED)
一過性骨髄異常増殖症(TAM)に対する化学療法および白血病発症予防法の確立を目指した第2相臨床試験の開発	長谷川 大輔	小児科	263,963	補 委 日本医療研究開発機構 (AMED)
ダウン症合併骨髄性白血病に対する標準的治療法の確立	長谷川 大輔	小児科	520,000	補 委 日本医療研究開発機構 (AMED)
小児急性リンパ性白血病に対する標準的治療法の確立:フォローアップ課題	長谷川 大輔	小児科	1,300,000	補 委 日本医療研究開発機構 (AMED)
心筋梗塞における時空間的シングルセル解析による病態解明と治療法開発 Spatio-temporal single-cell analysis of myocardial infarction for pathogenesis understanding and drug development	水野 篤	循環器内科	650,000	補 委 日本医療研究開発機構 (AMED)
新型コロナウイルス肺炎に対する高性能新規ECMOシステムの有効性・安全性に関する臨床研究	大谷 典生	救急部	5,000,000	補 委 日本医療研究開発機構 (AMED)
再生医療等安全性確保法における再生医療等のリスク分類・法の適用除外範囲の見直しに資する研究	福井 次矢	院長 (令和2年度当時)	7,780,000	補 委 厚生労働省
新型コロナウイルス感染症等の健康危機への備えと対応を踏まえた医療提供体制のための研究	福井 次矢	院長 (令和2年度当時)	3,000,000	補 委 厚生労働省
ゲノム情報を活用した遺伝性腫瘍の先制的医療提供体制の整備に関する研究	山内 英子	乳腺外科	500,000	補 委 厚生労働省
ベーチェット病に関する調査研究	山口 賢一	アレルギー膠原病科	300,000	補 委 厚生労働省
思春期・若年成人(AYA)世代がん患者の包括的ケア提供体制の構築に関する研究	小澤 美和	小児科	200,000	補 委 厚生労働省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
AYA世代がん患者に対する精神心理的支援プログラムおよび高校教育の提供方法の開発と実用化に関する研究	小澤 美和	小児科	500,000	補 委	厚生労働省
難治性小児消化器疾患の医療水準向上および移行期・成人期のQOL向上に関する研究	松藤 凡	小児外科	200,000	補 委	厚生労働省
難治性血管腫・脈管奇形・血管奇形・リンパ管腫・リンパ管腫症および関連疾患についての調査研究	野崎 太希	放射線科	300,000	補 委	厚生労働省
小児がん拠点病院等及び成人診療科との連携による長期フォローアップ体制の構築のための研究	長谷川 大輔	小児科	200,000	補 委	厚生労働省
小児・AYA世代がん患者に対する生殖機能温存に関わる心理支援体制の均てん化と安全な長期検体保管体制の確立を志向した研究-患者本位のがん医療の実現を目指して	北野 敦子	腫瘍内科	100,000	補 委	厚生労働省
サイトカイン初期応答に基づく新規川崎病再燃予測システムの確立	小野 林太郎	小児科	1,430,000	補 委	文部科学省
新生児の呼吸障害治療の新戦略のために～胃食道逆流現象からの新しいアプローチ	平田 倫生	小児科	650,000	補 委	文部科学省
思春期若年成人世代の血液腫瘍患者への情報提供の在り方と支援に関する研究	小澤 美和	小児科	30,000	補 委	文部科学省
人工知能技術を利用した肺結節の体積倍加時間変化の機序の解明に関する研究	松迫 正樹	放射線科	1,040,000	補 委	文部科学省
深層学習を利用した癌の個別化医療に有効なFDG-PET/CT画像上の特徴の抽出	松迫 正樹	放射線科	130,000	補 委	文部科学省
圧縮センシング技術を用いた臨床用MRIの至適撮像条件の検討および臨床応用	野崎 太希	放射線科	910,000	補 委	文部科学省
高分解能MRI、T2マップ、ZTEによる手関節構造解析と臨床応用	堀内 沙矢	放射線科	1,200,000	補 委	文部科学省
乳腺アポクリン癌の細胞形態とPI3K遺伝子変異との関連性の解明	野崎 史	病理診断科	1,430,000	補 委	文部科学省
MRI-US融合ガイド下前立腺標的生検を用いた前立腺癌の治療前悪性度評価法の確立	鹿股 直樹	病理診断科	65,000	補 委	文部科学省
乾癬の病態形成におけるレクチンを発現する真皮樹状細胞の重要性の解明	善家 由香里	皮膚科	1,430,000	補 委	文部科学省
ヤマカガシ咬傷における抗毒素の代替薬としてのトロンボモジュリン製剤の効果の検討	一二三 亨	救急部	260,000	補 委	文部科学省
本邦における院外心停止患者に対するECPRに関する多施設後向き観察研究	一二三 亨	救急部	65,000	補 委	文部科学省
冠動脈多枝病変の治療法選択における定量的冠血流比を用いたリスク評価の実用性の検討	浅野 拓	循環器内科	130,000	補 委	文部科学省
SCASH:進行非小細胞肺癌患者への症状クラスター高度サポート開発と評価	西村 直樹	呼吸器内科	130,000	補 委	文部科学省

計 36

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Yoshida K, Sato S, Inoue T, et al.	脳神経外科	Transvenous embolization for craniocervical junction epidural arteriovenous fistula with a pial feeder aneurysm.	Interv Neuroradiol. 2020 Apr;26(2):170-177.	Case report
2	Shiina Y, Taniguchi K, Nagao M, et al.	心血管センター	The relationship between extracellular volume fraction in symptomatic adults with tetralogy of Fallot and adverse cardiac events.	J Cardiol. 2020 Apr;75(4):424-431.	Original Article
3	Yamamoto K, Takahashi O, Kobayashi D.	消化器内科	Comparison of risk factors between human intestinal and gastric Anisakiasis.	Parasitol Int. 2020 Apr;75:102024.	Original Article
4	Daida A, Yamanaka G, Tsujimoto S, et al.	小児科	Relationship between Sedative Antihistamines and the Duration of Febrile Seizures.	Neuropediatrics. 2020 Apr;51(2):154-159.	Original Article
5	Omata F, Kumakura Y, Ishii N, et al.	消化器内科	Noneffectiveness of scopolamine for facilitating detection of upper gastrointestinal neoplasia during screening esophagogastroduodenoscopy: propensity score-matched study.	Endoscopy. 2020 Jul;52(7):556-562.	Original Article
6	Shiratori Y, Ikeya T, Fukuda K.	消化器内科	Effectiveness of endoscopic Doppler probe ultrasonography for identifying the source of colonic diverticular bleeding	VideoGIE. 2020 Apr 29;5(6):255-256.	Case report
7	Matsuo T, Deshpande GA, Arioka H, et al.	感染症科	Association of Residency Training With Metabolic Measures.	JAMA Netw Open. 2020 Apr 1;3(4):e205120. (オンライン)	Letter

8	Oguri N, Ikeya T, Kobayashi D, et al.	消化器内科	Effectiveness of risk scoring systems in predicting endoscopic treatment in colonic diverticular bleeding.	J Gastroenterol Hepatol. 2020 May;35(5):815-820.	Original Article
9	Yoshiyasu N, Kojima F, Takahashi O, et al.	呼吸器外科	The impact of surgical chest wall damage caused by classic thoracotomy on pulmonary function and morphology.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2020 May;68(5):508-515.	Original Article
10	Tomita S, Hoshino E, Kamiya K, et al.	一般内科	Direct and indirect costs of home healthcare in Japan: A cross-sectional study.	Health Soc Care Community. 2020 May;28(3):1109-1117.	Original Article
11	Son R, Nagahama M, Tanemoto F, et al.	腎臓内科	Hyponatremia presenting with hourly fluctuating urine osmolality.	Endocrinol Diabetes Metab Case Rep. 2020 May 13;2020:EDM19-0155. (オンライン)	Case report
12	Hibino Y, Imai R, Jinta T.	腫瘍内科	Diffuse large B-cell lymphoma presenting with cavitary lung disease.	Respirol Case Rep. 2020 May 11;8(5):e00584. (オンライン)	Case report
13	Kuwabara M, Kanbay M, Niwa K, et al.	心血管センター	Hyperosmolality and Increased Serum Sodium Concentration Are Risks for Developing Hypertension Regardless of Salt Intake: A Five-Year Cohort Study in Japan.	Nutrients. 2020 May 14;12(5):1422.	Original Article
14	Yamauchi R, Mizuno N, Itazawa T, et al.	放射線科	Dosimetric evaluation of deep inspiration breath hold for left-sided breast cancer: analysis of patient-specific parameters related to heart dose reduction.	J Radiat Res. 2020 May 22;61(3):447-456.	Original Article
15	Hifumi T, Fujishima S, Ubukata K, et al.	救急部	Clinical characteristics of patients with severe sepsis and septic shock in relation to bacterial virulence of beta-hemolytic Streptococcus and Streptococcus pneumoniae.	Acute Med Surg. 2020 May 31;7(1):e513. (オンライン)	Original Article
16	Momoeda M, Akiyama S, Tanaka K, et al.	女性総合診療部	Quality of Life in Japanese Patients with Dysmenorrhea Treated with Ethinylestradiol 20 μ g/Drospirenone 3 mg in a Real-World Setting: An Observational Study.	Int J Womens Health. 2020 May 4;12:327-338.	Original Article

17	Tada K, Shimpuku Y, Sunguya B, et al.	看護部	Evaluation of breastfeeding care and education given to mothers with low-birthweight babies by healthcare workers at a hospital in urban Tanzania: a qualitative study.	Int Breastfeed J. 2020 May 6;15(1):36.	Original Article
18	Suda M, Kishimoto M, Ohde S, et al.	アレルギー膠原病科	Validation of the 2019 ACR/EULAR classification criteria of systemic lupus erythematosus in 100 Japanese patients: a real-world setting analysis.	Clin Rheumatol. 2020 Jun;39(6):1823-1827.	Original Article
19	Matsuo T, Mori N, Sakurai A, et al.	感染症科	Aspergillus meningitis in a patient with chronic lymphocytic leukemia.	J Infect Chemother. 2020 Jun;26(6):622-624.	Case report
20	Shiratori Y, Ishii N, Ikeya T, et al.	消化器内科	Performance Status Is a Predictive Factor of Improvement after Colonic Stenting in Patients with Malignant Stenosis due to Extraparenteral Malignant Tumors.	Gastroenterol Res Pract. 2020 Jun 27;2020:5931341. (オンライン)	Original Article
21	Ishikawa K, Uehara Y, Matsuo T, et al.	感染症科	Pneumonia without Respiratory Symptoms.	Intern Med. 2020 Jun 1;59(11):1469.	Others
22	Dai Z, Asano T, Takahashi O, et al.	循環器内科	The minimal informative monitoring interval of N-terminal pro-B-type natriuretic peptide in patients with stable heart failure.	BMC Cardiovasc Disord. 2020 Jun 1;20(1):262. (オンライン)	Original Article
23	Okamoto T, Takagi K, Fukuda K.	消化器内科	Oxaliplatin-Induced Lhermitte's Sign in Gastric Cancer.	Case Rep Oncol Med. 2020 Jun 24;2020:8826657. (オンライン)	Case report
24	Kawakami N, Eda H, Nishiura M, et al.	救急部	A decade of Gottron's papules, inverse Gottron's papules and mechanic's hand in anti-MDA5-associated interstitial lung disease with clinically amyopathic dermatomyositis.	Oxf Med Case Reports. 2020 Jun 25;2020(6):omaa039. (オンライン)	Case report
25	So C, Ro S, Murakami M, et al.	呼吸器内科	High-dose, short-term corticosteroids for ARDS caused by COVID-19: a case series.	Respirol Case Rep. 2020 Jun 4;8(6):e00596. (オンライン)	Case report

26	Kubota K, Suzuki A, Ohde S, et al.	消化器・一般外科	Development of a Simple and Practical Delirium Screening Tool for Use in Surgical Wards.	J Nurs Res. 2020 Jun;28(3):e90. (オンライン)	Original Article
27	Yoshimura S, Migita M, Matsufuji H.	小児外科	The clinical outcomes of pediatric inguinal hernia repairs operated by surgical residents.	Asian J Surg. 2020 Jul;43(7):730-734.	Original Article
28	Okajima Y, Come CE, Nardelli P, et al.	放射線科	Luminal Plugging on Chest CT Scan: Association With Lung Function, Quality of Life, and COPD Clinical Phenotypes.	Chest. 2020 Jul;158(1):121-130.	Original Article
29	Yazaki S, Yamauchi T, Higashi T.	腫瘍内科	High hepatitis B virus screening rate among patients receiving systemic anticancer treatment in Japan.	Int J Clin Oncol. 2020 Jul;25(7):1327-1333.	Original Article
30	Sakakibara N, Komatsu H, Takahashi M, et al.	緩和ケア科	Validation of the Japanese version of the barriers questionnaire II in cancer pain management: a cross-sectional study.	BMC Palliat Care. 2020 Jul 9;19(1):102. (オンライン)	Original Article
31	Fukui S, Matsuo T, Mori N.	アレルギー膠原病科	Palatine Tonsillar Infection by Pseudoterranova azarasi.	Am J Trop Med Hyg. 2020 Jul;103(1):8.	Others
32	Hayashi N, Kumamaru H, Isozumi U, et al.	乳腺外科	Annual report of the Japanese Breast Cancer Registry for 2017.	Breast Cancer. 2020 Jul;27(5):803-809.	Others
33	Kobayashi D, Mizuno A, Shimbo T, et al.	一般内科	The association of repeatedly measured low-density lipoprotein cholesterol and all-cause mortality and cardiovascular disease in dyslipidemic patients: A longitudinal study.	Int J Cardiol. 2020 Jul 15;311:97-103.	Original Article
34	Okamoto T, Fukuda K.	消化器内科	Anterior Cutaneous Nerve Entrapment Syndrome Occurring after Endoscopy.	Case Rep Gastroenterol. 2020 Jul 28;14(2):377-382.	Case report

35	Yamahira S, Heike Y.	医科学研究センター	Facile Fabrication of Thin-Bottom Round-Well Plates Using the Deformation of PDMS Molds and Their Application for Single-Cell PCR.	Micromachines (Basel). 2020 Jul 31;11(8):748.	Original Article
36	Tasaki A, Nozaki T, Morita W, et al.	整形外科	The relationship between high-signal intensity changes in the glenohumeral joint capsule on MRI and clinical shoulder symptoms.	Asia Pac J Sports Med Arthrosc Rehabil Technol. 2020 Jul 31;22:27-33.	Original Article
37	Iwasaki T, Hifumi T, Hayashi K, et al.	救急部	Rapid influenza diagnostic test at triage can decrease emergency department length of stay.	J Am Coll Emerg Physicians Open. 2020 Jul 3;1(4):494-501.	Original Article
38	Mizuno A, Miyashita M, Kohno T, et al.	循環器内科	Quality indicators of palliative care for acute cardiovascular diseases.	J Cardiol. 2020 Aug;76(2):177-183.	Original Article
39	Kamo M, Nozaki T, Muraishi N, et al.	放射線科	CT Findings of Upper Urinary Tract Lesions in IgG4-Related Disease: Comparison With Urothelial Carcinoma.	AJR Am J Roentgenol. 2020 Aug;215(2):406-412.	Original Article
40	Ogita M, Shiraishi K, Karasawa K, et al.	放射線科	Clinical outcome of adjuvant radiotherapy for squamous cell carcinoma of the breast; a multicenter retrospective cohort study.	Breast. 2020 Aug;52:88-94.	Original Article
41	Kaido T.	消化器・一般外科	Recent evolution of living donor liver transplantation at Kyoto University: How to achieve a one-year overall survival rate of 99%?	Hepatobiliary Pancreat Dis Int. 2020 Aug;19(4):328-333.	Review
42	Kadota N, Murakami M, Imai R, et al.	呼吸器内科	Unilateral pleural effusion with capillary haemangioma.	Respirol Case Rep. 2020 Jun 25;8(6):e00613. (オンライン)	Case report
43	Shiratori Y, Ikeya T, Oguri N, et al.	消化器内科	Endoscopic Doppler probe ultrasonography for detecting blood flow at post-endoscopic submucosal dissection ulcers of the stomach.	Endosc Int Open. 2020 Aug;8(8):E1086-E1090. (オンライン)	Original Article

44	Shiratori Y, Ikeya T, Nakamura K, et al.	消化器内科	Feasibility and Safety of Oral Rehydration Therapy before Upper Gastrointestinal Endoscopic Submucosal Dissection.	Gastroenterol Res Pract. 2020 Aug 6;2020:4372503. (オンライン)	Original Article
45	Isokawa S, Hifumi T, Ishimatsu S, et al.	救急部	Man with severe COVID pneumonia.	J Am Coll Emerg Physicians Open. 2020 Jun 15;1(4):680.	Others
46	Shiratori Y, Ikeya T, Suzuki K, et al.	消化器内科	Rapidly Growing Papillary Well-Differentiated Adenocarcinoma in a Patient With a Helicobacter pylori-Naive Gastric Mucosa.	ACG Case Rep J. 2020 Aug 19;7(8):e00444. (オンライン)	Case report
47	Matsuo T, Kobayashi D, Taki F, et al.	感染症科	Prevalence of Health Care Worker Burnout During the Coronavirus Disease 2019 (COVID-19) Pandemic in Japan.	JAMA Netw Open. 2020 Aug 3;3(8):e2017271. (オンライン)	Original Article
48	Suzuki S, Uchino A, Numaguchi Y.	放射線科	Low origin of the persistent hypoglossal artery associated with high carotid bifurcation: a case report.	Surg Radiol Anat. 2020 Sep;42(9):1081-1083.	Case report
49	Kobayashi D, Mizuno A, Mitsui R, et al.	一般内科	Frequency of daily tooth brushing and subsequent cardiovascular events.	Coron Artery Dis. 2020 Sep;31(6):545-549.	Original Article
50	Ishii T, Fujimaru T, Nakano E, et al.	腎臓内科	Association between chronic kidney disease and mortality in stage IV cancer.	Int J Clin Oncol. 2020 Sep;25(9):1587-1595.	Original Article
51	Ohwaki K, Endo F, Shimbo M, et al.	泌尿器科	The Use of Cumulative Sum Analysis to Derive Institutional and Surgeon-Specific Learning Curves for Robot-Assisted Radical Prostatectomy.	J Endourol. 2020 Sep;34(9):969-973.	Original Article
52	Kobayashi D, Shimbo T.	一般内科	Longitudinal sleep duration and subsequent development of cancer in the Japanese population.	Neoplasma. 2020 Sep;67(5):1182-1190.	Original Article

53	Yoshino K, Abe K, Suzuki K, et al.	心臓血管外科	A Novel Technique of Endoscopic Vein Harvesting With Preserved Perivascular Tissue.	Innovations (Phila). Sep/Oct 2020;15(5):475–477.	Others
54	Hifumi T, Ishikawa Y, Otani N, et al.	救急部	Tokyo and New York: A Study in the Contrasting Effects of Socioeconomic Status on Coronavirus Disease 2019 Outcomes.	Crit Care Explor. 2020 Sep 15;2(9):e0221. (オンライン)	Others
55	Yamashita T, Takami A, Uchida N, et al.	血液内科	Reduced-intensity stem cell transplantation for acute myeloid leukemia with fludarabine-based conditioning with intravenous busulfan versus melphalan.	Bone Marrow Transplant. 2020 Oct;55(10):1955–1965.	Original Article
56	Okamoto T, Nakamura K, Fukuda K.	消化器内科	Mucin-producing bile duct tumor treated successfully with endoscopic ultrasound-guided hepaticogastrostomy.	Clin J Gastroenterol. 2020 Oct;13(5):812–817.	Case report
57	Soh M, Hifumi T, Isokawa S, et al.	救急部	Neuroleptic malignant syndrome in patients with COVID-19.	Am J Emerg Med. 2020 Oct;38(10):2243.e1–2243.e3.	Case report
58	Shiratori Y, Ikeya T, Suzuki K, et al.	消化器内科	The rare case of elevated signet ring cell gastric carcinoma with Helicobacter pylori-naïve mucosa.	Clin J Gastroenterol. 2020 Oct;13(5):736–739.	Case report
59	Shiratori Y, Nakamura K, Ikeya T, et al.	消化器内科	Treatment of esophageal perforation with mediastinal abscess by nasomediastinal drainage placement.	Clin J Gastroenterol. 2020 Oct;13(5):703–707.	Case report
60	Kobayashi D, First MB, Shimbo T, et al.	一般内科	Association of self-reported religiosity with the development of major depression in multireligious country Japan.	Psychiatry Clin Neurosci. 2020 Oct;74(10):535–541.	Original Article
61	Shimbo M, Endo F, Matsushita K, et al.	泌尿器科	Impact of indocyanine green-guided extended pelvic lymph node dissection during robot-assisted radical prostatectomy.	Int J Urol. 2020 Oct;27(10):845–850.	Original Article

62	Yamauchi R, Igari M, KasaiY, et al.	放射線科	Estimation of the cable effect in megavoltage photon beam by measurement and Monte Carlo simulation.	Med Phys. 2020 Oct;47(10):5324-5332.	Original Article
63	Yazaki S, Hashimoto J, Ogita S, et al.	腫瘍内科	Lower response to trastuzumab emtansine in metastatic breast cancer patients with human epidermal growth factor receptor 2 immunohistochemistry score of 2 and fluorescence in situ hybridization positive compared with immunohistochemistry score of 3: a retrospective study.	Anticancer Drugs. 2020 Oct;31(9):973-978.	Original Article
64	Shima S, Niimi Y, Moteki Y, et al.	脳神経外科	Prognostic Significance of Hyponatremia in Acute Stroke: A Systematic Review and Meta-Analysis.	Cerebrovasc Dis. 2020;49(5):531-539.	Review
65	Ozawa Y.	眼科	Oxidative stress in the light-exposed retina and its implication in age-related macular degeneration.	Redox Biol. 2020 Oct;37:101779. (オンライン)	Review
66	Otani N, Hifumi T, Kitamoto T, et al.	救急部	Current state of drug analysis in Japanese emergency departments: a nationwide survey.	Acute Med Surg. 2020 Oct 15;7(1):e566. (オンライン)	Original Article
67	Nakayama M, Hamada C, Yokoyama K, et al.	腎センター	A disposable, ultra-fine endoscope for non-invasive, close examination of the intraluminal surface of the peritoneal dialysis catheter and peritoneal cavity.	Sci Rep. 2020 Oct 16;10(1):17565. (オンライン)	Others
68	Izu A, Homma T, Shijo K, et al.	病理診断科	Clear cell tumor in the trigone of the lateral ventricle: A case report.	Neurochirurgie. 2020 Nov;66(5):402-404.	Letter
69	Ishikawa Y, Hifumi T, Urashima M.	救急部	Critical Care Medical Centers May Play an Important Role in Reducing the Risk of COVID-19 Death in Japan.	SN Compr Clin Med. 2020 Nov;2147-2150.	Original Article

70	Ishikawa Y, Hifumi T, Otani N, et al.	救急部	Relationship Between the Number of Patients Visiting Emergency Department and Tokyo Health System's Capacity During Early Stages of the First Wave of COVID-19.	SN Compr Clin Med. 2020 Nov;2158-2160.	Original Article
71	Okamoto T, Fukuda K.	消化器内科	Cryptococcus: A Rare Cause of Parotid Abscess in Liver Cirrhosis.	Case Reports Hepatol. 2020 Nov 17;2020:8849448. (オンライン)	Case report
72	Mizuno A, Kishi T, Matsumoto C, et al.	循環器内科	Two-Year Experience in "Tweeting the Meeting" During the Scientific Sessions - Rapid Report From the Japanese Circulation Society.	Circ Rep. 2020 Sep 25;2(11):691-694.	Others
73	Ro S, Imai R, Tamura T.	呼吸器内科	Efficacy of tacrolimus for bleomycin-induced lung injury.	QJM. 2020 Nov 1;113(11):807-808.	Case report
74	Matsuo T, Mori N, Mizuno A, et al.	感染症科	Infected aortic aneurysm caused by Helicobacter cinaedi: case series and systematic review of the literature.	BMC Infect Dis. 2020 Nov 17;20(1):854. (オンライン)	Case report
75	Ishikawa Y, Hifumi T, Urashima M.	救急部	Influence of Living Alone or with a Spouse Only on the Short-Term Prognosis in Patients after an Acute Ischemic Stroke.	Int J Environ Res Public Health. 2020 Nov 6;17(21):8223.	Original Article
76	Kitamura A, So C, Jinta T.	呼吸器内科	Improvement of COVID-19 with renal failure and paralytic ileus by using steroids.	Respirol Case Rep. 2020 Nov 29;9(1):e00689. (オンライン)	Case report
77	Miyazawa R, Kamo M.	放射線科	What affects the prognosis of NOMI patients? Analysis of clinical data and CT findings.	Surg Endosc. 2020 Dec;34(12):5327-5330.	Original Article
78	Nakai T, Fukui S, Ikeda Y, et al.	アレルギー膠原病科	Potential and prognostic factor for belimumab-free remission in patients with systemic lupus erythematosus: a single-center retrospective analysis.	Clin Rheumatol. 2020 Dec;39(12):3653-3659.	Original Article

79	Miyazawa R, Matsusako M, Nozaki T, et al.	放射線科	Incidental mediastinal masses detected at low-dose CT screening: prevalence and radiological characteristics.	Jpn J Radiol. 2020 Dec;38(12):1150-1157.	Original Article
80	Okamoto T, Nakamura K, Fukuda K.	消化器内科	Successful endoscopic mucosal resection for non-ampullary duodenal signet-ring cell carcinoma.	Clin J Gastroenterol. 2020 Dec;13(6):1102-1110.	Review
81	Horiuchi S, Nimura A, Tsutsumi M, et al.	放射線科	Anatomical relationship between the morphology of the styloid process of the ulna and the attachment of the radioulnar ligaments.	J Anat. 2020 Dec;237(6):1032-1039.	Original Article
82	Nishiyama T, Yamada D, Oba K, et al.	放射線科	Left omental artery bleeding in two patients with segmental arterial mediolysis successfully isolated with coil embolization.	CVIR Endovasc. 2020 Jul 19;3(1):36.	Case report
83	Okamoto T, Nakamura K, Takasu A, et al.	消化器内科	Needle tract seeding and abscess associated with pancreatic fistula after endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration.	Clin J Gastroenterol. 2020 Dec;13(6):1322-1330.	Review
84	Shiratori Y, Suzuki K, Ikeya T, et al.	消化器内科	Colonic clear cell adenocarcinoma with enteroblastic differentiation.	Clin J Gastroenterol. 2020 Dec;13(6):1196-1199.	Review
85	Shiratori Y, Nakamura K, Suzuki K, et al.	消化器内科	Endoscopic papillectomy for an ampullary neuroendocrine tumor.	Clin J Gastroenterol. 2020 Dec;13(6):1144-1149.	Case report
86	Anan G, Komatsu K, Hatakeyama S, et al.	泌尿器科	One-surgeon basketing technique for stone extraction during flexible ureteroscopy for urolithiasis: A comparison between novice and expert surgeons.	Int J Urol. 2020 Dec;27(12):1072-1077.	Original Article
87	Soh M, Hifumi T, Iwasaki T, et al.	救急部	Impaired mental health status following ICU care in a patient with COVID-19.	Acute Med Surg. 2020 Aug 11;7(1):e562. (オンライン)	Case report

88	Hayashi N, Yagata H, Tsugawa K, et al.	乳腺外科	Response and Prognosis of Docetaxel and Cyclophosphamide as Neoadjuvant Chemotherapy in ER + HER2 – Breast Cancer: A Prospective Phase II Study.	Clin Breast Cancer. 2020 Dec;20(6):462–468.	Original Article
89	Yamauchi R, Mizuno N, Itazawa T, et al.	放射線科	The influence of respiratory motion on dose distribution in accelerated partial breast irradiation using volumetric modulated arc therapy.	Phys Med. 2020 Dec;80:23–33.	Original Article
90	Amaha K, Arimoto T, Kitamura N.	整形外科	Effect of toe exercises and toe grip strength on the treatment of primary metatarsalgia.	J Orthop Surg Res. 2020 Dec 2;15(1):580.	Original Article
91	Okamoto T, Fukuda K, et al.	消化器内科	Intestinal Manifestations of Generalized Lymphatic Anomaly.	Intern Med. 2020 Dec 15;59(24):3241–3242.	Others
92	Shiba D, Hifumi T, Watanabe Y, et al.	救急部	Association between inflammation in acute phase and early onset pneumonia in patients with out-of-hospital cardiac arrest treated with extracorporeal cardiopulmonary resuscitation.	Acute Med Surg. 2020 Dec 10;7(1):e610. (オンライン)	Original Article
93	Ishiyama Y, Shimbo M, Iizuka J, et al.	泌尿器科	Association between prostate cancer characteristics and BRCA1/2-associated family cancer history in a Japanese cohort.	PLoS One. 2020 Dec 22;15(12):e0244149. (オンライン)	Original Article
94	Kawakami N, Namkoong H, Saito F, et al.	救急部	Epidemiology of macrolide-resistant Mycoplasma pneumoniae by age distribution in Japan.	J Infect Chemother. 2021 Jan;27(1):45–48.	Original Article
95	Shiina Y, Inai K, Miyazaki S, et al.	心血管センター	Aortic Vorticity, Helicity, and Aortopathy in Adult Patients with Tetralogy of Fallot: Pilot Study Using Four-Dimensional Flow Magnetic Resonance Images.	Pediatr Cardiol. 2021 Jan;42(1):169–177.	Original Article
96	Yamamoto K, Ikeya T, Okuyama S, et al.	消化器内科	Negative correlation of high serum bilirubin with cancer development in adults without hepatobiliary disease.	Eur J Cancer Prev. 2021 Jan;30(1):69–75.	Original Article

97	Shiina Y, Nagao M, Shimomiya Y, et al.	心血管センター	Secondary sarcopenia assessed by computed tomography can predict hospitalization for heart failure in adults with Fontan circulation.	J Cardiol. 2021 Jan;77(1):10-16.	Original Article
98	Okamoto T, Yoshimoto T, Fukuda K.	消化器内科	Multiple non-polypoid mucosal Schwann cell hamartomas presenting as edematous and submucosal tumor-like lesions: a case report.	BMC Gastroenterol. 2021 Jan 19;21(1):29.	Case report
99	Okada M, Kurimoto S, Ganz F, et al.	アレルギー膠原病科	LOOP, a cross-sectional, observational study investigating the clinical specialty setting as a determinant of disease management in psoriatic arthritis: Subgroup analysis results from Japan.	PLoS One. 2021 Jan 27;16(1):e0245954. (オンライン)	Original Article
100	Okamoto T, Yoshimoto T, Ohike N, et al.	消化器内科	Spontaneous regression of gastric gastrinoma after resection of metastases to the lesser omentum: A case report and review of literature.	World J Gastroenterol. 2021 Jan 7;27(1):129-142.	Review
101	Shimizu MS, Matsuo T, Mori N, et al.	感染症科	Neurocysticercosis.	IDCases. 2021 Jan 2;23:e01040. (オンライン)	Others
102	Okamoto T, Ikeya T, Fukuda K.	消化器内科	Crowned Dens Syndrome Occurring after Endoscopic Submucosal Dissection for Early Gastric Cancer.	Case Rep Gastroenterol. 2021 Jan 21;15(1):22-27.	Case report
103	Okamoto T, Fukuda K.	消化器内科	Anisakiasis of the Terminal Ileum Removed by Colonoscopy.	Case Rep Gastroenterol. 2021 Jan 25;15(1):47-52.	Case report
104	Ryu B, Sato S, Inoue T, et al.	神経血管内治療科	A novel omnidirectional tin-alloyed ring retractor for craniotomy in neurosurgery: technical note.	Neurosurg Rev. 2021 Feb;44(1):619-624.	Original Article
105	Ryu B, Sato S, Mochizuki T, et al.	神経血管内治療科	De novo intracranial arteriovenous malformation development after endovascular treatment for a pial arteriovenous fistula in capillary malformation-arteriovenous malformation syndrome.	Interv Neuroradiol. 2021 Feb;27(1):25-30.	Case report

106	Sato S, Niimi Y, Shima S, et al.	脳神経外科	A case of pediatric paraspinal arteriovenous fistula with multiple fistulas.	Interv Neuroradiol. 2021 Feb;27(1):37-41.	Case report
107	Ono R, Ashiarai M, Hirabayashi S, et al.	小児科	Ruxolitinib for hematopoietic cell transplantation-associated hemophagocytic lymphohistiocytosis.	Int J Hematol. 2021 Feb;113(2):297-301.	Case report
108	Matsuo T, Mori N, Kawai F, et al.	感染症科	Vagococcus fluvialis as a causative pathogen of bloodstream and decubitus ulcer infection: Case report and systematic review of the literature.	J Infect Chemother. 2021 Feb;27(2):359-363.	Review
109	Nishimura A, Hirabayashi S, Hasegawa D, et al.	小児科	Acquisition of monosomy 7 and a RUNX1 mutation in Pearson syndrome.	Pediatr Blood Cancer. 2021 Feb;68(2):e28799. (オンライン)	Case report
110	Nagao T, Saito K, Yamanaka M.	女性総合診療部	Prehypertension in early pregnancy is a risk factor for hypertensive disorders during pregnancy: A historical cohort study in Japan.	Hypertens Pregnancy. 2021 Feb;40(1):51-55.	Original Article
111	Nakagawa M, Ohta H, Shimabukuro R, et al.	小児科	Daytime nap and nighttime breastfeeding are associated with toddlers' nighttime sleep.	Sci Rep. 2021 Feb 4;11(1):3028.	Original Article
112	Okamoto T, Takasu A, Yoshimoto T, et al.	消化器内科	Digital compression for hemostasis in acute hemorrhagic rectal ulcer: a report of 4 cases and review of the literature.	Clin J Gastroenterol. 2021 Jun;14(3):796-804.	Review
113	Ochi T, Tsunoda H, Matsuda N, et al.	乳腺外科	Accuracy of morphologic change measurements by ultrasound in predicting pathological response to neoadjuvant chemotherapy in triple-negative and HER2-positive breast cancer.	Breast Cancer. 2021 Jul;28(4):838-847.	Original Article
114	Banno A, Hifumi T, Okamoto H, et al.	麻酔科	Clinical characteristics and outcomes of critically ill COVID-19 patients in Tokyo: a single-center observational study from the first wave.	BMC Infect Dis. 2021 Feb 9;21(1):163.	Original Article

115	Shin K, Hifumi T, Tsugitomi R, et al.	救急部	Empyema with fistula successfully treated with a comprehensive approach including bronchial blocker and embolization receiving veno-venous extracorporeal membrane oxygenation.	Acute Med Surg. 2021 Feb 9;8(1):e621.	Original Article
116	Hifumi T, Yamakawa K, Shiba D, et al.	救急部	Head positioning in suspected patients with acute stroke from prehospital to emergency department settings: a systematic review and meta-analysis.	Acute Med Surg. 2021 Feb 9;8(1):e631. (オンライン)	Review
117	Nishizawa T, Tsuchiya T, Terasawa Y, et al.	一般内科	Neurofibromatosis type 1 with subarachnoid haemorrhage from the left vertebral arteriovenous fistula: case presentation and literature review.	BMJ Case Rep. 2021 Feb 22;14(2):e239880. (オンライン)	Review
118	Watanabe K, Sato E, Mishima E, et al.	腎臓内科	Effect of uremic toxins on hippocampal cell damage: analysis in vitro and in rat model of chronic kidney disease.	Heliyon. 2021 Feb 10;7(2):e06221. (オンライン)	Original Article
119	Mizuno A, Matsumoto C, Kishi T, et al.	心血管センター	Cardiology Department Policy in Japan After Coronavirus Disease-2019 (COVID-19) – Descriptive Summary of 2nd Nationwide Survey by the Japanese Circulation Society.	Circ Rep. 2021 Jan 29;3(2):100-104.	Original Article
120	Takasu A, Ikeya T, Fukuda K.	消化器内科	Endoscopic Removal of a Press-Through Pack from the Anal Canal.	Case Rep Gastroenterol. 2021 Feb 3;15(1):137-141.	Case report
121	Yamamoto K, Shiratori Y, Ikeya T.	消化器内科	Utility of the Gel Immersion Method for Treating Massive Colonic Diverticular Bleeding.	Clin Endosc. 2021 Mar;54(2):256-260.	Original Article
122	Yamada D, Murakami M, Matsusako M, et al.	放射線科	Pulmonary Tumor Thrombotic Microangiopathy Appearance on Dual-Energy Computed Tomography.	Am J Respir Crit Care Med. 2021 Mar 15;203(6):759-760.	Case report
123	Yamashita Y, Tsunoda H, Nozaki F, et al.	乳腺外科	Evaluation of Axillary Lymph Nodes in Breast Cancer Patients with Atopic Dermatitis.	Ultrasound Med Biol. 2021 Mar;47(3):370-375.	Original Article

124	Yoshida T, Akitani F, Hayashi K, et al.	産婦人科	Effectiveness of 10% povidone-iodine formulation on preoperative vaginal irrigation.	J Obstet Gynaecol Res. 2021 Mar;47(3):935-940.	Original Article
125	Shirasaki K, Hifumi T, Kato T, et al.	救急部	Central airway obstruction treated with initial support by venovenous extracorporeal membrane oxygenation.	BMJ Case Rep. 2021 Mar 10;14(3):e237282. (オンライン)	Case report
126	Fukui S, Kawaai S, Nakai T, et al.	アレルギー膠原病科	Effectiveness and safety of Mizoribine for the treatment of IgG4-related Disease: A Retrospective Cohort Study.	Rheumatology (Oxford). 2021 Mar 16;keab235. (オンライン)	Original Article
127	Yamamoto K, Kanomata N, Ikeya T.	消化器内科	Utility of under-gel endoscopic mucosal resection with partial submucosal injection for a laterally spreading tumor.	Endoscopy. 2021 Mar 15. (オンライン)	Case report
128	Shiratori Y, Ikeya T, Ishii N, et al.	消化器内科	Association between the chronic use of gastric acid suppressants and high-risk colorectal polyps.	JGH Open. 2021 Jan 29;5(3):371-376.	Original Article
129	Mizuno A, Matsumoto C, Yoneoka D, et al.	循環器内科	Cardiology Department Practices in the First Wave of the Coronavirus Disease Pandemic - A Nationwide Survey in Japan by the Japanese Circulation Society.	Circ Rep. 2021 Feb 5;3(3):137-141.	Original Article
130	Okamoto T, Suzuki H, Fukuda K.	消化器内科	Gastric linitis plastica due to signet-ring cell carcinoma with Krukenberg tumors diagnosed by endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration.	Clin J Gastroenterol. 2021 Aug;14(4):994-1003.	Case report
131	Watanabe K, Nakayama M, Yamamoto T, et al.	腎センター	Different clinical impact of hyperuricemia according to etiologies of chronic kidney disease: Gonryo Study.	PLoS One. 2021 Mar 25;16(3):e0249240. (オンライン)	Original Article
132	Imai R, Ikemura S, Jinta T.	呼吸器内科	Anti-TIF1 γ antibody-positive dermatomyositis associated with durvalumab administration in a patient with lung and oesophageal cancers.	Respirol Case Rep. 2021 Mar 23;9(4):e00736. (オンライン)	Case report

133	Ryu B., Sato S., Niimi Y.	神経血管内治療科	Distortion and retraction injury at the hair-pin portion of the radiculomedullary artery during endovascular therapy for arteriovenous fistulas of the filum terminale.	Interdisciplinary Neurosurgery. 2021 Mar;23:100898 (オンライン)	Case report
134	Ishimaru H, Tsuda Y, Kage H, et al.	薬剤部	Pressure Compatibility Test of Closed System Drug Transfer Devices for 71 Anticancer Drugs.	Yakugaku Zasshi. 2021;141(1):143-150.	Original Article
135	Arai M, Nozaki T, Matsusako M, et al.	放射線科	MR Imaging of Mushroom-like Skin Adnexal Tumors in the Scalp: A Report of Two Cases.	Magn Reson Med Sci. 2020 Aug 3;19(3):282-285.	Case report
136	Hifumi T.	救急部	Spontaneous Non-Traumatic Clostridium perfringens Sepsis.	Jpn J Infect Dis. 2020 May 22;73(3):177-180.	Review
137	Hifumi T, Fukuchi Y, Otani N, et al.	救急部	Clinical characteristics of jellyfish stings in Japan.	Acute Med Surg. 2019 Nov 25;7(1):e469. (オンライン)	Original Article

計137件

- 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					
2					
3					
～					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される
主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	⑦・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	⑦・無
・ 手順書の主な内容 「研究倫理審査取扱規程」、「研究倫理審査委員会標準業務手順書」 ：委員会設置の要件、責務、委員会の構成、会議の成立要件、運営、 記録の保存、審査区分フォロー 等	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 24 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	⑦・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	⑦・無
・ 規定の主な内容 「学校法人聖路加国際大学利益相反マネジメント規程」 ：マネジメントの目的、定義、対象、判断基準、手続き 等 「学校法人聖路加国際大学における研究に係る利益相反管理規程」 ：研究における利益相反管理の目的、定義、報告方法、委員会の設置・構成 等 「臨床研究法における利益相反管理に関する標準業務手順書」 ：臨床研究法に基づく利益相反管理の目的、適用範囲、管理体制 等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 6 回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 2 回
・ 研修の主な内容 ①初級者（ベーシックコース）：e-learning（年1回）、2020年度受講者：437名。 ②初級者以外（アドバンストコース）：e-learning（年1回）、2020年度受講者：500名。	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

新専門医制度に基づく研修プログラム

専攻する診療科の研修をはじめ、病棟診療担当業務・救急外来診療業務など、臨床医として幅広い経験を積み、他科との有機的な連携をめざしたチーム医療を実践できる研修を実施しています。また、研究センター・教育センター等の組織を有し、シミュレーション教育や臨床研究をサポートする研修環境を整備しています。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	20人
-------------	-----

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
阿部 世紀	麻酔科	部長	26年	
鹿股 直樹	病理診断科	部長	30年	
百枝 幹雄	産婦人科	部長 (副院長)	37年	
北村 信人	整形外科	部長	28年	
松藤 凡	外科	部長 (副院長)	40年	
服部 一紀	泌尿器科	部長	35年	
松井 瑞子	形成外科	部長	33年	
草川 功	小児科	医長	38年	
栗原 泰之	放射線科	部長	37年	
石松 伸一	救急科	部長 (副院長)	36年	
新井 達	皮膚科	部長	30年	
小澤 洋子	眼科	部長	29年	
長浜 正彦	内科	医長	22年	
有岡 宏子	総合診療	部長	35年	
池田 真人	精神科	部長	38年	
岡田 芳和	脳神経外科	部長	47年	
中条 恭子	耳鼻咽喉科	部長	32年	
森 信好	感染症科	部長	16年	
中山 昌明	腎臓内科	部長	37年	
岡田 正人	膠原病科	部長	32年	
木村 哲也	神経内科	部長	28年	
福田 勝之	消化器内科	部長	27年	
山内 英子	乳腺外科	部長 (副院長)	34年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

旧専門医制度に基づく研修プログラム

専攻する診療科の研修をはじめ、病棟診療担当業務・救急外来診療業務など、臨床医として幅広い経験を積み、他科との有機的な連携をめざしたチーム医療を実践できる研修を実施しています。また、研究センター・教育センター等の組織を有し、シミュレーション教育や臨床研究をサポートする研修環境を整備しています。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	21人
-------------	-----

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
有岡 宏子	総合診療	部長	35年	
森 信好	感染症科	部長	16年	
森 慎一郎	血液内科	部長	30年	
木村 哲也	神経内科	部長	28年	
小宮山 伸之	循環器内科	部長 (副院長)	38年	
田村 友秀	呼吸器内科	部長	38年	
中山 昌明	腎臓内科	部長	37年	
福田 勝之	消化器内科	部長	27年	
岡田 正人	膠原病科	部長	32年	
太田 大介	心療内科	部長	29年	
林 章敏	緩和ケア科	部長	32年	
山内 照夫	腫瘍内科	部長	33年	
松藤 凡	外科	部長 (副院長)	40年	
海道 利実	消化器・一般外科	部長	35年	
山内 英子	乳腺外科	部長 (副院長)	34年	
板東 徹	呼吸器外科	部長	34年	
岡田 芳和	脳神経外科	部長	47年	
服部 一紀	泌尿器科	部長	35年	
小澤 洋子	眼科	部長	29年	
中条 恭子	耳鼻咽喉科	部長	32年	
北村 信人	整形外科	部長	28年	
松井 瑞子	形成外科	部長	33年	
阿部 世紀	麻酔科	部長	26年	
草川 功	小児科	医長	38年	
百枝 幹雄	産婦人科	部長 (副院長)	37年	
石松 伸一	救急科	部長 (副院長)	36年	
新井 達	皮膚科	部長	30年	
栗原 泰之	放射線科	部長	37年	
河守 次郎	放射線腫瘍科	部長	35年	

能登 洋	内分泌・代謝科	部長	28年
新見 康成	神経血管内治療科	部長	38年
小澤 康弘	歯科口腔外科	部長	35年
池田 真人	精神科	部長	38年
鹿股 直樹	病理診断科	部長	30年

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
■人工呼吸器ワークショップ（ベーシック） ・研修の主な内容：人工呼吸器の基本モードと設定、モニタリングと評価、グラフィック分析 ・研修の期間・実施回数：2020年8月22日（土）1回 ・研修の参加人数：看護師10名 ■人工呼吸器ワークショップ（アドバンス） ・研修の主な内容：ARDS・COPD患者の呼吸管理、グラフィック分析や肺メカニクスを活用した患者評価、従圧換気 ・研修の期間・実施回数：2021年2月6日（土）1回 ・研修の参加人数：看護師 13 名 ■薬物治療ガイドラインに関する研修 ・研修の主な内容：各種薬物治療に関するガイドラインの配信と情報共有 ・研修の期間・実施回数：年 9 回、30 分/回 ・研修の参加人数：臨床薬剤室所属薬剤師：16名
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
(1) 管理者向け （対象：全職種の部長・医長・マネジャー） ・研修の主な内容 e-ラーニング「部下との接し方、スキル、姿勢等の実践方法」 ・研修の期間・実施回数 2020/12/7～ 2021/4/22（約20分の動画を3本みて小テストを行う） ・研修の参加人数 191人 (2) 新任管理者向け （対象：2020年度新任の管理者） ・研修の主な内容 「新任管理者に向け通信教育：マネジャーのための人事・労務管理100」 ・研修の期間・実施回数 2020/7月～ 1 回 ・研修の参加人数 12人

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- ・ 研修の主な内容
- ・ 研修の期間・実施回数
- ・ 研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
管理責任者氏名	院長 石松 伸一
管理担当者氏名	病院事務部長 渡辺 明良

		保 管 場 所		管 理 方 法
診療に関する諸記録	掲げる事項 規則第二十二 条の三第二項に	病院日誌	総務課	紙媒体
		各科診療日誌	電子カルテ	電子媒体 紙媒体（中央管理） ※診療記録の院外への持ち出しは禁止している。業務上必要な理由により院外へ持ち出す場合は、目的等を届け出て、運用責任者の承認を得る。
		処方せん		
		手術記録		
		看護記録		
		検査所見記録		
		エックス線写真		
		紹介状		
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		
病院の管理及び運営に関する諸記録	三項に掲げる事項 規則第二十一 条の三第	従業者数を明らかにする帳簿	人事課人事システム	電子媒体
		高度の医療の提供の実績	医事課	電子媒体
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	院内ネットワーク 研究企画管理部	電子媒体
		高度の医療の研修の実績	教育センター、人事課	電子媒体
		閲覧実績	医事課	電子媒体（実績なし）
		紹介患者に対する医療提供の実績	電子カルテ内	電子媒体
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	電子カルテ内	電子媒体
	項に掲げる事項 規則第一 条の十一第	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	イントラネット QIセンター医療安全管理室	電子媒体
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	イントラネット セーフティマネジメント委員会チーム内ドキュメント	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	QIセンター	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	QIセンター	

			保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	イントラネット ≫方針・手順	電子媒体
		院内感染対策のための委員会の開催状況	イントラネット 感染予防委員会チーム内ドキュメント	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	QIセンター	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	イントラネット 感染予防委員会チーム内ドキュメント	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	人事課人事システム	発令
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	イントラネット 薬剤部チーム内ドキュメント	電子媒体
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	イントラネット 薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	イントラネット 薬剤マネジメント委員会	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	人事課人事システム	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	受講する各部署	紙媒体
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学室部門システム、各部署点検記録	電子媒体および紙媒体		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	使用する各部署	電子媒体		

		保 管 場 所	管 理 方 法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	イントラネット 法人事務局>>規程集「聖路加国際病院QIセンター運営規程」	電子媒体
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	人事課人事システム	発令
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	イントラネット 薬剤マネジメント委員会サイト	電子媒体
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	イントラネット 法人事務局>>規程集「聖路加国際病院インフォームド・コンセント委員会運営規程」	電子媒体
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	イントラネット 法人事務局>>規程集「聖路加国際病院医療記録の運用管理規程」	電子媒体
		医療安全管理部門の設置状況	イントラネット QIセンター>>医療安全管理室>>「聖路加国際病院安全管理指針」 イントラネット 法人事務局>>規程集「聖路加国際病院QIセンター運営規程」	電子媒体
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	イントラネット 法人事務局>>規程集「聖路加国際病院高難度新規医療技術評価室運営規程」	電子媒体
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	イントラネット 法人事務局>>規程集「聖路加国際病院臨床倫理委員会運営規程」「薬剤マネジメント委員会運営規程」	電子媒体
		監査委員会の設置状況	イントラネット 法人事務局>>規程集「聖路加国際病院医療安全監査委員会規程」	電子媒体
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	イントラネット QIセンター>>医療安全管理室>>インシデント報告書・状況報告書	電子媒体
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	初回を2022年1月20日に予定しているため実績なし	電子媒体
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	イントラネット QIセンター>>医療安全管理室>>「聖路加国際病院安全管理指針」	電子媒体

	医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	イントラネット 法人事務局>>規程集「医療安全管理に関する内部通報規程」	電子媒体
	職員研修の実施状況	QIセンター	電子媒体
	管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	QIセンター	電子媒体
	管理者が有する権限に関する状況	イントラネット 法人事務局>>規程集	電子媒体
	管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	イントラネット 法人事務局>>規程集	電子媒体
	開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	イントラネット 法人事務局>>規程集	電子媒体

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
閲覧責任者氏名	病院事務部長 渡辺 明良	
閲覧担当者氏名	医事課マネジャー 利根川 崇	
閲覧の求めに応じる場所	東京都中央区明石町9番1号 聖路加国際病院内	
閲覧の手続の概要		
「聖路加国際病院諸記録閲覧規程」に基づいて、閲覧申請書により、閲覧責任者に申請を行う。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0 件
閲覧者別	医 師	延	0 件
	歯 科 医 師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	☒ 有 ・ 無
「学校法人聖路加国際大学聖路加国際病院_安全管理指針」 ・ 指針の主な内容 1. 聖路加国際病院における安全管理に関する基本的考え方 2. 安全管理のための組織体制 組織図 QIセンター医療安全管理室運営規程 セーフティマネジメント委員会運営規程 高難度新規医療技術評価委員会運営規程 3. 医療に係る安全管理のための職員研修について 4. 院内報告制度 5. 事故発生時の対応 6. 患者および患者家族の権利保護に関する方針・手順 7. インフォームド・コンセントの方針・手順 8. 患者からの苦情に関する方針・手順 9. 患者相談窓口の活動に関する規約	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
・ 設置の有無 (☒ 有 ・ 無) ・ 開催状況：年12回 ・ 活動の主な内容 - インシデント・状況報告の集計結果、患者影響レベル3a以上のインシデントの共有 - インシデント・状況報告の対策の検討と立案 - 重大な症例についての関係者ミーティングの開催報告 - 死亡症例の確認状況の報告、検討を要した死亡症例の報告 - 予期せぬ死亡・死産発生時の報告体制の協議 - 患者・家族による撮影（静止画・録画）・録音の禁止に関する協議 - 医療安全ラウンドの報告 - 医療安全に係る各種方針・手順、医療安全管理指針の改訂の協議 - 医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、医療放射線安全管理責任者からの報告 - CVC合併症発生率、CVC指導医・認定医の判定結果の共有。	

③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 18 回
・ 研修の内容（すべて）： - 国際患者安全目標（IPSG）に関する内容 - アレルギー情報の入力方法 - CVC認定医・指導医 認定制度 - CVCの安全な挿入 - Team STEPPS - COVID-19患者の急変対応 - 救急カートの取扱い - 輸血療法の安全な実施 - インフォームド・コンセントの法的側面 - 医療事故発生時の連携 - 胸腔ドレーン挿入時の注意点	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 （ ☒ 有 ・ ☐ 無 ） ・ その他の改善のための方策の主な内容 - 院内外で発生した事例において分析・対策立案を行い、医療看護安全情報を発信 - 医療安全文化調査の実施 - 国際患者安全目標に基づく患者確認・有効なコミュニケーション等の実施状況のモニタリング - 薬剤部・病理診断科・放射線科からの疑義照会データの集計と要因分析・改善策の策定と実施 - 重大なインシデントや死亡症例に関する関係者ミーティングの開催 - 警鐘事例についてのRCA（根本原因分析）の実施 - 医療安全管理の適正な実施に対する匿名疑義に対する対応 - 院内ラウンドによる事故発生リスクの把握と改善策の立案、および改善策実施の確認	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
「医療関連感染予防に関する方針」 ・指針の主な内容 - 医療関連感染予防に関する基本的考え方 - 医療関連感染予防に関する組織とその役割 - 感染予防委員会 - 感染予防チーム - 抗菌薬適正使用支援チーム - QI センター感染管理室 - 医療関連感染の発生に関する報告と対応 - 感染予防に関する方針と手順（閲覧に関する内容を含む） - 感染予防に関する研修	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
活動の主な内容： 病院長および各部門を代表する職員で構成され、医療関連感染リスク評価のための各種指標の報告、活動報告、部門報告、方針・手順の改定に関する審議および承認等を行う。	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 23 回
研修の内容（すべて）： 手指衛生および個人防護具の活用は全職員必須の内容とし、これに加えて薬剤耐性菌対策、医療器具関連感染対策、職業感染予防などに関する研修を部門や職種のニーズに応じて実施している。2020年度はCOVID-19関連の勉強会を複数回実施した。	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
病院における発生状況の報告等の整備 （有・無） その他の改善のための方策の主な内容： - 新型コロナウイルス感染症の医療関連感染予防のための取り組み - 薬剤耐性菌および<i>C. difficile</i>陽性患者発生状況の把握およびフィードバック - 薬剤耐性菌および<i>C. difficile</i>陽性患者に対する接触予防策およびその他の伝播予防のための取り組み（保菌のハイリスク群を対象としたスクリーニング検査や退院清掃後のUVC照射等） - 抗菌薬の使用状況の把握とコンサルテーション - 手指衛生実施率の把握、評価、フィードバック、実施率向上のための取り組み（手指消毒薬へのアクセスの改善、非アルコール手指衛生剤の採用等） - 医療器具関連感染・手術部位感染発生率の把握、フィードバックおよび予防のための取り組み（バンドル実施率の評価、カテーテル早期抜去のための多角的対策等） - 結核感染予防のための早期診断および隔離のための取り組み - 針刺し・切創発生状況の評価と予防のための取り組み - 清掃の品質評価と改善のための取り組み - 建築・改築時の感染リスク評価と予防のための取り組み - 感染性廃棄物の安全管理に関する取り組み - 麻疹、風疹等のワクチンで予防可能な感染症に対する免疫獲得のための取り組み など	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	☒ ・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 18 回
・研修の主な内容 ・ 全職員対象（e-learning） - ハイアラート薬の定義 - ハイアラート薬のストック薬の保管場所、保管方法 - 高濃度電解質の保管部署の制限 - 高濃度電解質の調剤・処方・投与に関する制限 ・ 新入職員・中途入職員対象（講義） - 医師 - 処方について（廃棄薬・麻薬管理を含む）、処方・薬剤情報検索について - 看護師 - ハイアラート薬の正しい取り扱いと管理 ・ その他、各部署の特性に応じて講義を企画・開催 - 新型コロナウイルス感染症治療へ主に従事する医師、看護師 - ロナプリーブ使用上の注意点 - オンコロジーセンター看護師 - 各種抗がん剤の特性、患者指導のポイント など	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 （ ☒・無 ） 「医薬品の安全使用のための業務手順書 第14版」 ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： ① 医薬品安全管理責任者による定期巡回 - 薬剤部門や病棟・外来部門において、医薬品安全管理責任者による巡回を定期的に実施。 - 医薬品の取り扱い・保管管理状況が手順書に沿って適正に行われているかを確認する。 - 不履行や改善必要事項などに対し、当該部署の医薬品管理部署責任者にフィードバックをし、改善する。 ② 病棟薬剤師による病棟ストック薬保管管理状況の確認 - 1か月に1回、病棟・診療科担当薬剤師が16項目について実施状況を確認する。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （ ☒・無 ） ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： 令和2年度に審議された未承認薬は1薬剤、適応外は10件審議された。未承認薬は成人用三種混合であるBoostrixが承認後に使用されている。Boostrixは、臨床倫理委員会で倫理的側面を審議承認され、薬剤マネジメント委員会で有効性・安全性の側面から審議され承認された。 ・ その他の改善のための方策の主な内容： - 調剤過誤削減のため、一包化監査システムを稼働 - PMDA等から配信される医薬品の安全性に関する情報を直ちに入手し、速やかに伝達できる体制を取っている - 発生した医薬品の副作用を医薬品情報室で一元管理している。薬剤マネジメント委員会で報告後、病院内の職員にも周知している。	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	☒ ・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 112 回
研修の主な内容 - 対象者 新規医療機器導入時使用予定者に対し、また初めて医療機器を使用する職員に対して。特に安全使用に際して技術の習熟が必要と考えられる医療機器6分野に対して。 - 研修内容 医療機器の有効性・安全性・基本的な使用方法に関する事項。 - 研修内容の記録と確認 医療機器研修報告書にて記録後、医療機器安全管理実施責任者→医療機器安全管理責任者→医療安全管理室→院長の順で確認を行う。	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
医療機器に係る計画の策定 (☒・無) 機器ごとの保守点検の主な内容： - 体制 実際に医療機器を管轄する各部門の管理者を医療機器安全管理実施責任者として任命し、医療機器安全管理責任者と協力して管理する。 - 管理方法 医療機器安全管理実施責任者が、医療機器点検の年間計画表、月次報告を作成し、医療機器安全管理責任者へ報告する。 ➢ 年間計画表 毎年年度初めに、医療機器安全管理実施責任者が各担当の医療機器の年間計画表を作成し、医療機器安全管理責任者の承認を得る。 ➢ 月次報告書 医療機器安全管理実施責任者は、毎月の点検内容や不具合の情報を月次報告書に記載し、医療機器安全管理責任者に報告する。 - 点検方法 厚労省が定めるクラス分類で定期点検、日常点検（故障時対応）を実施する。 ➢ 定期点検（クラスⅢ・Ⅳ、一部Ⅱ） 添付文書や取扱説明書に沿って実施。必要時には業者と相談し点検内容を検討。医療機器ごとに点検報告書を作成し保管する。点検年月、次回点検予定月が記載されている定期点検済シールを医療機器に貼り付け、当該医療機器の点検状況が使用者に分かるようにする。 ➢ 日常点検・故障時対応（クラスⅠ・Ⅱ） 院内に複数代替機があり、不具合が発生した場合にすぐに交換ができる機器とする。また、使用前・使用后点検など日常点検を実施し基本性能や安全性の確認を行う。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
医療機器に係る情報の収集の整備 (☒・無) 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：無 その他の改善のための方策の主な内容： - 情報収集 医療機器安全管理責任者、医療機器安全管理実施責任者、機器の購入・管理に係る物品管理課などが、医薬品医療機器総合機構（PMDA）に登録を行い、医療機器の情報収集を行う。また、メーカーとも連携して情報収集を行う。 - 病院運営会議への報告 医療機器安全管理責任者は、医療機器安全管理実施責任者から報告される月次報告などに基づき、医療機器の安全管理状況及び推奨事項を四半期に一度、病院管理者へ報告する。 - 医療機器安全管理会議の開催 各部署の医療機器管理状況の確認や、医療機器の不具合・インシデントの内容を検討することを目的とし、四半期に一度会議を開催する。	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	☒ 有 ・ 無
責任者の資格 責任者：副院長、QIセンター長（医師） 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 別表1「医療安全管理体制」を参照	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	☒ 有（2名） ・ 無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 ・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 院内組織（薬剤マネジメント委員会）により、厚生労働省、東京都およびPMDAから通知される医薬品に関する情報を収集・集約し、必要に応じてその使用に関わる部門、医師、薬剤師、看護師等に直接、あるいはメール等で周知し、安全確保に最善を尽くしている。 また、患者における健康被害が最小限となるよう、回収などの対応を院内および地域保健薬局とも連携協働し、迅速に行っている。 ・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 院内組織（臨床倫理委員会・薬剤マネジメント委員会）にて院内使用状況の把握及び安全使用の観点より、未承認薬使用の申請の手続きならびに審査を実施している。 また、当該医薬品の安全管理と使用状況の把握のため、薬剤部内にて管理している。 ・ 担当者の指名の有無（☒ 有 ・ 無） ・ 担当者の所属・職種：（所属：薬剤部 職種：薬剤師）	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	☒ 有 ・ 無
・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 （ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容： インフォームド・コンセント委員会を設置し以下の内容を実施 ・ 「インフォームド・コンセントに関する方針・手順」において、包括同意にて同意を確認する医療行為、文書を用いた同意の確認が必要な医療行為、同席者が必要な医療行為、代諾者の定義、診療録記載方法等を明示。 ・ 上記に基づいたインフォームド・コンセントの状況のモニタリングを実施。 ・ 説明・同意文書の審査システムを構築。（具体的なシステム：説明・同意文書に必要な項目を網羅した院内の「雛形」に従って各診療科・部署で作成した説明・同意文書をインフォームド・コンセント委員会に申請し、承認後に診療録に登録する。） ・ 上記の審査システムにおいて、各診療科・部署より選出したインフォームド・コンセント担当者が、他診療科・部署が作成した説明・同意文書を査読して相互評価を行う。	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	☒ 有 ・ 無
・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： 初診時記録記載率、毎日の記録記載率、手術レコード 24 時間以内作成率、手術レコード出血量記載欄記載率、手術レコード検体名・検体数記載欄記載率、研修医の記載に対する指導医の追記率、退院サマリー作成率、複写による記載（コピー＆ペースト）率、略語使用率などを定期的に監査し、医師全体への周知、診療科・個別の医師へのフィードバックを行っている。	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	☒ 有 ・ 無
・ 所属職員：専従（3）名、専任（0）名、兼任（1）名 うち医師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（1）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（0）名 うち看護師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（0）名 （注）報告書を提出する年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること ・ 活動の主な内容： - 医療安全管理のための指針の策定 - セーフティマネジメント委員会の運営 - 医療に係る安全管理のための職員研修の実施 - 事故及びその他管理者が医療安全管理部門において取り扱うことが必要と認める事象が発生した場合における①診療録その他の診療に関する記録の確認、②患者又はその家族への説明、③当該事象の原因の究明の実施、④その他の対応状況の確認、⑤当該確認の結果に基づく従業者への必要な指導 - 医療安全管理に係る連絡調整 - 医療安全の確保のための対策の推進（プロアクティブな活動を含む） - 医療安全の確保のための診療内容の現状把握並びに医療安全に関する職員の意識向上及びその状況確認 - 各部門の医療安全対策の実施状況の評価に基づいた医療安全確保のための業務改善計画書作成、及びそれに基づく医療安全対策の実施状況の評価とその記録 - 医療安全管理者の業務、及び医療安全管理室の活動実績の記録 - 医療安全対策に係る取り組みの評価等を目的とした週 1 回程度の定期的なカンファレンスの開催 - 入院患者の死亡の事実及び死亡前の状況の確認、入院患者の死亡以外で通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして病院が定める水準以上の事象が発生したときの当該事象の発生事実、発生前の状況の確認および院長への報告 - 院内における合併症の発症状況の確認	

- 年に1回以上の医療安全管理改善を目的とする他院の職員との相互訪問、評価、技術的助言の交換

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（ 4 件）、及び許可件数（ 4 件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）
- ・ 活動の主な内容：
 - 高難度新規医療技術の提供の適否等について高難度新規医療技術評価委員会に意見を求める。
 - 上記委員会の意見を踏まえて、高難度新規医療技術の提供の適否等についての評価・決定を行う。
 - 提供された高難度新規医療技術の実施状況や遵守状況に関する確認を行う。
 - 高難度新規医療技術の提供体制の改善、技術の停止について院長に提言する。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（ 4 件）、及び許可件数（ 4 件）
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）
- ・ 活動の主な内容：

未承認薬については、臨床倫理委員会で倫理的側面を審議し、薬剤マネジメント委員会で有効性・安全性を審議して評価する。未承認医療機器については、医療機器安全管理責任者を含めた臨床倫理委員会で倫理的側面・有効性・安全性を審議して評価する。臨床倫理委員会および薬剤部にて、未承認薬等の使用状況についての確認を行う。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：

インシデント・アクシデント報告のうち、死亡事例は年 10 件

※2019 年 4 月より入院患者の死亡を医療安全管理部門が全件把握しており、2020 年 4 月～2021 年 3 月までの報告件数は 529 件。

・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 85 件

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

－事象の情報共有

事象に対する当院の現状把握と改善案の検討

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

初回の相互立入り及び技術的助言を 2022 年 1 月 20 日に予定（埼玉医科大学病院）

・他の特定機能病院等への立入り（有（病院名： ）・☐無）

・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有（病院名： ）・☐無）

・技術的助言の実施状況

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

患者相談窓口を設置し、医療安全等に関する要望・訴えを含む患者・患者家族等からの相談を受けている。患者が病院に対する各種要望・意見を投書するご意見箱と患者相談窓口に寄せられた相談内容を患者サービス課が集計・分類・状況確認・対応方針の検討を行い、全件を関係者に情報共有すると共に、内容に応じてご意見対応ミーティングにて、管理者出席のもと、対応方針を決定している。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

新規採用者および中途入職者に対して医療安全及び感染管理に関する院内研修を実施。

さらに全職員に対して、医療安全及び感染予防についての勉強会を実施し、全職員が年 2 回以上受講することとしている。加えて、重点課題をテーマにした勉強会も開催している。

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

① 院内研修

管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を含む、院内の全職員に対して、医療安全及び感染予防についての勉強会を実施し、全職員が年 2 回以上受講することとしている。

② 院外研修

管理者（石松）特定機能病院管理者研修 受講予定 （2021 年 12 月 15 日）

医療安全管理責任者（小宮山）日本病院会 医療安全管理者養成講習会受講（2018 年度）

医薬品安全管理責任者（後藤）日本病院薬剤師会 医薬品安全管理責任者等講習会（2019 年度）

医療機器安全管理責任者（金）日本病院会 医療安全管理者養成講習会受講（2018 年度）

（注）前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

Joint Commission International 認定：2018 年 7 月 31 日更新、2021 年 12 月 20～24 日再受審予定

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

今年度受審後、公表予定

・評価を踏まえ講じた措置

これまでの評価に対する措置は、第三者機関に対策立案を提出し、承認をいただき、更新の受診時に実施状況を確認されている。

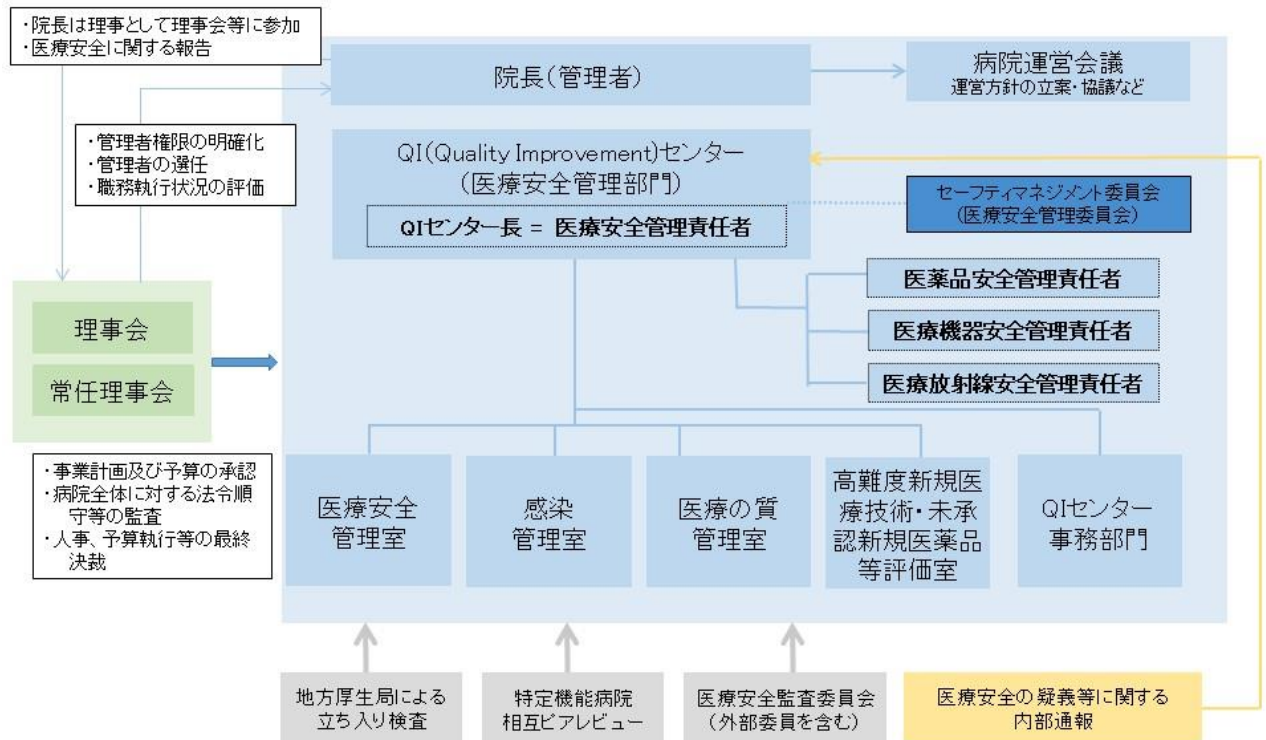
2018 年受審時に指摘された事項の中から、医療安全に関連するものを以下に提示する。

- ・ 皮切部位にマーキングが行えない場合の書面を用いたマーキングのルールが確定していなかった。

（注）記載時点の状況を記載すること

別表 1

医療安全管理体制



規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準	
・ 基準の主な内容 聖路加国際病院院長任用規程より (院長の資格) 第2条 院長は、人格高潔にして学識に富み、病院運営の方針を実現する医療面の責任者であるとともに、理事会の重要な一員として、法人の経営に参画するに相応しい者でなければならない。 (院長候補者要件) 第8条 院長の候補者は以下の基準を満たした者とする。 (1) 聖路加国際病院（以下「病院」という）の理念を踏まえたキリスト教信徒であること。ただし、当該候補者がキリスト教信徒でない場合は、キリスト教精神を尊重する者であること。 (2) 日本国内の医師免許を有し、保険医の登録を受けている者であること。 (3) 医療の安全の確保のため、医療安全管理業務の経験を有し、患者安全を第一に考える姿勢及び能力を有している者であること。 (4) 病院の適正な管理運営に必要な資質及び能力、ならびに病院内外での組織管理経験を有している者であること。 (5) 高度医療の提供、高度医療技術の開発及び評価、高度医療に関する研修等、病院が行う医療およびその発展にリーダーシップを発揮できる者であること。 (6) 医療提供と安定的な経営とのバランスを考えた、健全で全体最適な病院経営を担える者であること。 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ ☒ ・ 無 ） ・ 公表の方法：病院ホームページにて公表 （病院紹介＞情報公開＞特定機能病院の管理者（院長）の選任について）	

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	☒ ・ 無
・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ ☒ ・ 無 ） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ ☒ ・ 無 ） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ ☒ ・ 無 ） ・ 公表の方法：病院ホームページにて公表 （病院紹介＞情報公開＞特定機能病院の管理者（院長）の選任について）	

管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関 係
糸魚川 順	学校法人聖路加国際大学理事長 (令和2年度当時)	○	聖路加国際病院院長任用規程第6条第1号に基づく、理事長またはこれを代理する者	有・無
佐々木 新一	元住友商事株式会社代表取締役副社長 (令和2年度当時)		聖路加国際病院院長任用規程第6条第2号に基づく、理事会の互選による理事	有・無
細谷 亮太	聖路加国際病院小児科顧問		聖路加国際病院院長任用規程第6条第2号に基づく、理事会の互選による理事	有・無
堀内 成子	聖路加国際大学学長		聖路加国際病院院長任用規程第6条第3号に基づく、病院運営会議の互選による者	有・無
鈴木 千晴	聖路加国際病院副院長・看護部長		聖路加国際病院院長任用規程第6条第3号に基づく、病院運営会議の互選による者	有・無
大内 尉義	冲中記念成人病研究所代表理事、前虎の門病院院長		聖路加国際病院院長任用規程第6条第4号に基づく、法人と利害関係のない外部の者のうち、聖路加国際病院院長任用細則第3条第1項第1号に規定する病院管理及び医療に係る安全管理に関する見識を有する者	有・無
川添 利賢	弁護士・木澤・川添法律事務所		聖路加国際病院院長任用規程第6条第4号に基づく、法人と利害関係のない外部の者のうち、聖路加国際病院院長任用細則第3条第1項第2号に規定する法律に関する見識を有する者	有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の
設置及び運営状況

合議体の設置の有無			有・無
・合議体の主要な審議内容 病院運営会議で運営方針の立案・協議、経営管理・管理の実施に関する審議を行っている。 (聖路加国際病院病院運営会議規程第2条) ・審議の概要の従業者への周知状況 病院管理協議会、部長管理医長会、事務連絡協議会など各種会議で周知。 ・合議体に係る内部規程の公表の有無（有・無） ・公表の方法：病院ホームページにて公表 (病院紹介＞情報公開＞病院運営会議規程) ・外部有識者からの意見聴取の有無（有・無） 理事会、評議員会、常任理事会、外部評価委員会で外部有識者からの意見を聴取している。			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
石松伸一	○	医師	院長
堀内成子		看護師・助産師	学長
百枝幹夫		医師	副院長
山内英子		医師	副院長
小宮山伸之		医師	副院長 (医療安全管理責任者)
鈴木千晴		看護師	副院長・看護部長
熊倉泰久		医師	聖路加国際病院附属クリニック所長
佐々木佳子		看護師	聖路加国際病院訪問看護ステーション所長
山内淳子		助産師	聖路加助産院マタニティアホーム所長
本多一文		医師	聖路加メディロークス所長
後藤一美		薬剤師	薬剤部長 (医薬品安全管理責任者)
神崎扇洋		放射線技師	コメディカル部長
伊藤数馬		事務	常務理事
佐藤剛		事務	常務理事
渡辺明良		事務	法人事務局長 兼病院事務部長
青木眞晴		事務	管財・物品管理課担当部長
服部一紀		医師	医療機器安全管理責任者
栗原 泰之		医師	医療放射線安全管理責任者

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ ☒ ・ 無 ）
- ・ 公表の方法

病院ホームページにて公表

（病院紹介＞情報公開＞聖路加国際病院運営規則および学校法人聖路加国際大学稟議書運用細則）

- ・ 規程の主な内容

病院運営規則第7条において、院長の職務を規定している。

- （1）病院経営方針の立案。
- （2）病院の経営方針に基づく事業計画の策定と実行の管理。
- （3）病院各部門の業務計画の承認および実行の管理。
- （4）病院各部門の予算執行の承認および実行の管理。
- （5）その他病院運営に関する院長業務。

また、稟議書運用細則において、管理者が有する組織・人事等の決裁権限を定めている。

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

- （1）副院長を4名任命し、経営方針の立案に参画等の職務を担う。
- （2）病院事務部医事課企画係において、病院運営における課題等に対する企画・立案・改善等に関する業務、病院業績指標に関する業務、その他病院運営に関する業務を行う
- （3）上記のほか、院長付の事務スタッフを3名任命し、院長の職務遂行に必要なデータ管理、企画・立案・改善のサポートを行う。

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

- （1）職能資格制度運用細則・役割等級制度運用細則に基づき、職位に応じた人事考課を行っている。
- （2）毎年、管理者の職位にあるものに対しては管理者研修を行っている。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況	④・無
・ 監査委員会の開催状況：年 2 回 ・ 活動の主な内容： 《2020 年度第 1 回医療安全監査委員会》 ※7 月に開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会議室に集合しての開催ではなく、メール会議に変更して開催した。 ● 報告事項： ・ 前回委員会での助言・提言に対する当院の対応状況について ・ 医療放射線安全管理責任者について ・ 医療安全管理室専従スタッフによる医療安全ラウンドの開始について ・ 医療安全業務改善計画書について ・ COVID-19 患者急変対応の学習コンテンツ開講について ・ 医療看護安全情報の常時公開と周知率向上への取り組みについて ・ 匿名で疑義や懸念を表明できる仕組みについて ● 配布資料 ・ セーフティマネジメント委員会（法令上の「医療に係る安全のための委員会」に該当）議事録 2020 年 2 月～2020 年 6 月分 ・ 重大インシデントの関係者ミーティング議事録 《2020 年度第 2 回医療安全監査委員会》 ※2 月に開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会議室に集合しての開催ではなく、メール会議に変更して開催した。 ● 報告事項： ・ 前回委員会での助言・提言に対する当院の対応状況について ・ 特定機能病院承認の報告 ・ 医療法第 25 条第 1 項の規定に基づく立入検査の報告 ・ 医療安全ラウンドの報告 ・ インフォームド・コンセント委員会の活動報告 ● 配布資料 ・ セーフティマネジメント委員会（法令上の「医療に係る安全のための委員会」に該当）議事	

録 2020 年 7 月～2021 年 2 月分

・ 重大インシデントの関係者ミーティング議事録

- ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 (☒ 有 ・ 無)
- ・ 委員名簿の公表の有無 (☒ 有 ・ 無)
- ・ 委員の選定理由の公表の有無 (☒ 有 ・ 無)
- ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 (☒ 有 ・ 無)
- ・ 公表の方法：病院ホームページで公表

(病院紹介＞情報公開＞医療安全監査委員会)

監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
相馬孝博	千葉大学医学 部附属病院	○	千葉大学医学部附属 病院において医療安 全担当副病院長を務 められ、医療安全に 関する知識や実績が 豊富なこと。	有・ ☒ 無	1
七里守	榊原記念病院		医療の質・安全学会 の代議員を務めら れ、医療安全全般に 関する知識が豊富で あること。	☒ 有 ・ 無	1
滝沢牧子	群馬大学		医療の質・安全管理 部の助教を務めら れ、医療安全全般に 関する知識が豊富で あること。	有・ ☒ 無	1
小林信秋	認定 NPO 法人難 病のこども支 援全国ネット ワーク		長年にわたって患者 支援活動を行って おり、医療を受ける 者の代表として適任 であること。	有・無	2
渡邊俊太郎	翼法法律事務所		関連法務から企業法 務まで幅広い分野で 活躍され、医療事故 調査委員としての実 績も十分なこと。	有・無	1

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1. に掲げる者を除く。)
3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・ 体制の整備状況及び活動内容

専門部署として内部統制監査室を設置。
そのほか、理事会および常任理事会（監事が出席）も同様の役割を担っている。

・ 専門部署の設置の有無（ ☒ ・ 無 ）

・ 内部規程の整備の有無（ ☒ ・ 無 ）

・ 内部規程の公表の有無（ ☒ ・ 無 ）

・ 公表の方法： 病院ホームページで公表

（病院紹介＞情報公開＞「学校法人聖路加国際大学内部監査細則」、「学校法人聖路加国際大学
理事会委任規程」および「学校法人聖路加国際大学常任理事会規程」）

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 学校法人聖路加国際大学寄附行為に基づき、理事会が病院の管理運営状況を監督している。 ・ 会議体の実施状況（ 定例：年 3 回、臨時：年 4 回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ ☒ ・ 無 ）（ 定例：年 3 回、臨時：年 4 回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ ☒ ・ 無 ） ・ 公表の方法：病院ホームページにて公表 （病院紹介＞情報公開＞「学校法人聖路加国際大学寄附行為」、「学校法人聖路加国際大学理事会委任規程」）			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

（注） 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合
等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ ☒ ・ 無 ）
・ 通報件数（2020 年度 18 件）
・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（ ☒ ・ 無 ）
・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ ☒ ・ 無 ）
・ 周知の方法
管理協議会等の各種会議および院内メールで周知。

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	⑦・無
・ 情報発信の方法、内容等の概要 病院ホームページにおいて発信 キリスト教精神に基づき、先端的な教育・研究に支えられた「質の高い安全な医療」を実践する高度急性期病院でありながら、緩和医療や外来診療が中心となる分野まで広くカバーする総合病院の在り方を追求し、患者さんと社会から信頼される医療を提供する。 【運営の基本方針】 1. 「患者との協働医療」を実現するため、患者の価値観に配慮した医療を行う。 2. 医療の質を高めるため、「根拠に基づいた医療」を実践する。 3. 全人的医療を行うため、全職員の専門性を結集する。 4. 地域住民の医療・介護・保健・福祉に貢献するため、地域の医療者・施設と連携する。 5. 国内外の医療の発展に資するため、優れた医療人を育成する。 6. 医療の発展に寄与するため、現場に根ざした研究を行う。 7. 国際病院としての役割を果たすため、海外からの患者の受け入れ態勢を整える。 8. 上記 7 項目を実現し継続するため、健全な病院経営を行う。	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	⑦・無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 疾患ごとに診療科横断的な治療を目的とし、下記の通り複数の診療科・多職種から構成されるセンター化を推し進めている。 ブレストセンター・心血管センター・呼吸器センター・消化器センター・脳神経センター・リエゾンセンター・周術期センター・腎センター・オンコロジーセンター・ロボット手術センター・スポーツ総合医療センター・遺伝診療センター	